

令和元年度
北海道博物館事業実績報告書
(事業実績に関する内部評価)

令和2年10月

北海道博物館

目 次

はじめに	1
事業実績に関する評価にあたっての基本的な考え方	2
I. 総括評価.....	3
(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置.....	5
(2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置.....	5
(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	6
(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置.....	7
(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置.....	8
(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置.....	9
(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置.....	10
(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	11
(9) 各々の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	12
III. 項目別評価	13

はじめに

本報告書は、北海道博物館の令和元年度事業実績に関する内部評価報告書である。

ここで言う「北海道博物館」とは、北海道立総合博物館条例の第3条で規定する三つの施設、（１）北海道博物館（以下「博物館」という。）、（２）北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）、（３）野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）のうち、（１）のことを指す。

令和元年度に博物館が実施した事業実績に関する内部評価は、博物館が策定した「北海道博物館基本的運営方針」に基づく「中期目標・計画」及び「年度計画」を対象とし、平成31（2019）年4月から令和2（2020）年3月末までの実績で実施した。令和2（2020）年8月中旬に項目別評価を行ない、令和2（2020）年9月3日（木）に内部評価委員会を開催し、総括評価を実施した。

なお、博物館の施設及び設備の維持管理、「開拓の村」及び「ふれあい交流館」の管理運営については、指定管理者制度が導入されており、指定管理者に対する評価は、知事が定める管理の目標に対する達成度を毎年度、把握、公表することで行っているため、北海道博物館が行う内部評価の対象外とした。

令和元年度 北海道博物館内部評価委員会 委員名簿

委員長	石森 秀三	北海道博物館 館長
副委員長	小野寺誠司	北海道博物館 副館長
副委員長	中村 亘	北海道博物館 アイヌ民族文化担当副館長
副委員長	小川 正人	北海道博物館 学芸副館長 兼アイヌ民族文化研究センター長 兼研究部長
委員	川田 宣人	北海道博物館 総務部長
委員	堀 繁久	北海道博物館 学芸部長
委員	池田 貴夫	北海道博物館 総務部企画グループ学芸主幹
委員	水島 未記	北海道博物館 学芸部博物館基盤グループ学芸主幹
委員	三浦 泰之	北海道博物館 学芸部道民サービスグループ学芸主幹
委員	甲地 利恵	北海道博物館 学芸部社会貢献グループ学芸主幹 兼アイヌ文化研究グループ研究主幹
委員	井田 操	北海道環境生活部 文化局 文化振興課主幹
委員	小島 圭介	北海道環境生活部 アイヌ政策推進局主幹

事務局	北海道博物館 総務部企画グループ
-----	------------------

事業実績に関する内部評価にあたっての基本的な考え方

博物館は、「基本計画」の第2章6項（4）「博物館運営の評価」の趣旨に基づき、平成30年度の事業実績に関する内部評価を実施した。

なお、博物館は博物館法で定める「登録博物館」、「公立博物館」に該当する施設ではないが、内部評価を実施するに当たっては、「博物館法」第9条ならびに「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（文部科学省告示第165号）の第4条1項の規程を参考にして実施した。

博物館が具体的に内部評価を行うに当たっては、当館が策定した「北海道博物館内部評価実施要領」により次のように実施した。

○目 的

- ・博物館が策定した基本的運営方針の達成状況等を自ら点検し、改善を図ること。
- ・評価を通じて、博物館の課題・成果を館外で共有してアカウンタビリティ（責任説明）を明確にして、博物館の運営状況をわかりやすく道民に示すこと。

○評価の実施

博物館は、第1期中期目標・計画期間（平成27年度～平成31年度）における令和元年度（平成31年4月から令和2年3月末まで）の事業実績に関して、次の内部評価を行った。

ア．項目別評価

各グループが実施した事業に関する点検作業の結果に基づいて、年度計画の項目ごとに、各グループのグループリーダー（主幹、学芸主幹、研究主幹）が年度事業の実績ならびに達成状況や課題を記述するとともに、評価基準により評価を行った。

イ．総括評価

項目別評価の結果に基づいて、博物館が設置した「北海道博物館内部評価委員会」において、全体及び特記事項について記述式により評価を行った。

○項目別評価・総括評価の基準

評価基準	判断の目安	
	取組の項目に関する事項 （右欄の項目以外の項目）	数値目標の項目に関する事項
S 上回って実施している	取組の結果、所期の成果等を上回ったとき	達成度が90%以上 （S、A の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）
A 十分に実施している	取組の結果、所期の成果等を得たとき	
B 十分に実施していない	取り組んではいるが、所期の成果等を得られなかったとき	達成度が90%未満 （B、C の評価は取組状況を勘案の上、判断する。）
C 実施していない	取組が行われていないとき	

I．総括評価

令和元年度 北海道博物館総括評価結果

総括評価 No.	視 点	評価 基準
1・2	(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	A
3	(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	A
4	(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	B
5	(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	A
6	(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	A
7	(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置。	A
8	(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	A
9	(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	B

総括評価No.	1・2	対象とする中期目標・計画No.	1～4
---------	-----	-----------------	-----

北海道博物館基本的運営方針

- 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります。
 - 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。
 - 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
1	A	・未登録資料の整理・受入	基盤G
2	A	・公開承認施設としての資料保存環境の整備 ・データベースの新規登録を進める。	基盤G
3	A	・総合展示の維持管理と資料の入替	基盤G
4	A	・総合博物館として様々な企画展を計画・実施	基盤G
5	B	・総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	基盤G
6	A	・科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	基盤G
7	B	・北海道開拓の村歴史的建造物の整備・修繕と建造物内部展示工事の実施、整備・修繕計画策定。 ・歴史的建造物の内部展示の改修計画の策定。	企画G

総括評価		
視点	(1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置 (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○資料の収集保存・調査研究・展示など、博物館としての根幹に関わる基本的な事業は実施できている。 ○開拓の村整備事業については、予定していた2棟の補修工事及び内部展示更新を完了した。（項目No.7）	A
	②改善・注視を要する取り組み ○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のなかで、館外での調査研究活動について、どの程度実施可能か、引き続き感染状況を注視しながら検討することが必要。（項目No.5、6） ○開拓の村については、歴史的建造物の修繕方針の策定や内部展示のあり方など、中長期的な計画の策定が引き続き課題である。（項目No.7）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、B評価の項目も見られるものの、総合博物館としての根幹に関わる基本的な機能を維持するための取組は実施できているものと判断し、総体としてA評価とする。	

総括評価No.	3	対象となる中期目標・計画No.	5、6、8～10
---------	---	-----------------	----------

北海道博物館基本的運営方針

2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。

(1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
8	A	・子ども向けの魅力あるイベントの充実	道民G
9	A	・あらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法の策定	道民G
10	A	・はっけん広場の利用者促進	道民G
11	A	・ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取り組み	社貢G
12	B	・アメニティ施設の設置 ・オリジナルグッズの販売 ・施設の活用に向けた基準の策定	総括G
13	B	・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼	総括G
14	A	・野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	総括G
15	A	・利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践	道民G
16	A	・「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動	道民G
17	B	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価及び外部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 ・第2期中期目標・計画（平成32～36年度）の策定。	企画G

総括評価		
視点	(3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館となった際に、同じく感染拡大の影響により休校となった小中学校等の子どもたちが自宅で楽しく学べる、ウェブ上の教材提供コンテンツ「おうちミュージアム」事業を企画・実施するとともに、ロゴマークの共有により道内外の博物館等に参画を呼びかけ、全国展開を図った。（項目No.9）	A
	②改善・注視を要する取り組み ○学校団体向け教育プログラムである「はっけんプログラム」の実績値（108件）は目標値（220件）に達しなかった。前年度実績（114件）を踏まえると大きくは変わらないが、今後は実施可能なプログラムの改善や周知など学校への働きかけが必要である。（項目No.8） ○教育普及活動に必要な知識・技術向上のための館職員の研修については、キャリアプランに応じた研修派遣など、中長期的な人材育成として考えていくことが課題として残っている。（項目No.11） ○野幌森林公園内でのヒグマ出没により、公園内の巡視や公園利用者への注意喚起などの安全対策業務を最優先したことにより、館運営の一部にも影響が生じた。（項目No.12～14）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、B評価の項目も見られるものの、休館中における利用者ニーズを踏まえた新たな取組などもあり、利用者の支持は高く保たれているものと判断し、総体としてA評価とする。	

総括評価No.	4
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	7、10
-----------------	------

北海道博物館基本的運営方針
2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します。 (2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけでなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
17	B	・北海道立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価及び外部評価の計画的実施。 ・オーディエンス・リサーチの実施とその検討。 ・第2期中期目標・計画（平成32～36年度）の策定。	企画G
18	B	・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。 ・博物館ネットワークの推進と強化。	企画G

総括評価		
視点	(4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○道民参加型組織の創設については、段階的に推進していく一環として、サークル型学習活動の「ちゃれんが古文書クラブ」を企画・立案した。（項目No.18）	B
	②改善・注視を要する取組み ○第2期中期目標・計画については、作成方針の検討に時間を要し、年度内に作成ができなかった。目標管理体制が徹底していなかったことによるものと認識している。（項目No.17） ○道民参加型組織については、これまで「どうすべきか」という理念的な目標・あり方の議論が中心になっていたが、今後は、目標達成のための戦略を年次目標に落とし込むような形で具体的に進めていくことが必要であり、その際には、担当グループ内でとりまとめつつも、館内で共有しながら取り組むことが必要。（項目No.18）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、計画のあり方・進め方、目標管理体制のあり方を含め、優先して今後の改善・充実化を図るべきものと判断し、B評価とする。	

総括評価No.	5
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	11
-----------------	----

北海道博物館基本的運営方針

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。

(1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
19	A	質の高い連携による、企業や民間団体、図書館、博物館、自治体等との連携・協力事業の実施	社貢G

総括評価		
視点	(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○全国的な博物館組織である全国歴史民俗系博物館協議会と連携し、北海道を会場とした令和元年度年次集会を、北海道博物館・北海道開拓の村において開催し、全国（道外20施設・道内7施設）から多くの参加を得ることができた。	A
	②改善・注視を要する取組み ○今後は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をふまえた、日本博物館協会や道内外の博物館等の連携協力が必要となってくる。	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、地域の博物館等とのネットワークが着実に機能しているものと判断し、A評価とする。	

総括評価No.	6
---------	---

対象とする中期目標・計画No.	12
-----------------	----

北海道博物館基本的運営方針

3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します。

(2) 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
20	A	・図書室の蔵書の充実及び利用促進 ・レファレンスサービスの記録化及び活用	社貢G

総括評価		
視点	(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○図書室については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りながら、順調な運営ができた。	A
	②改善・注視を要する取り組み ○レファレンスについては、依然として記録率の向上が課題として残っている。 ○現状では学芸職員が来館・電話・メール等で受けた質問のみをレファレンス数としてカウントしているが、博物館全体としては、学芸職員以外でも質問も受けている（解説員が観覧中の来館者から受ける質問など）ため、目標・実績におけるカウントの基準について、明確にする必要がある。	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 評価の妥当性の観点から改善を要する課題が浮かび上がったものの、項目別評価は概ね妥当であり、情報発信機能およびレファレンス機能が着実に発揮されているものと判断し、A評価とする。	

総括評価No.	7	対象とする中期目標・計画No.	13、14
---------	---	-----------------	-------

北海道博物館基本的運営方針

- 4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。
- (1) 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
21	A	・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成 ・博物館学系領域の充実化	社貢G
22	A	・研究成果の多様な発信	社貢G
23	A	・道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり	企画G

総括評価		
視点	(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置。	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○突出した実績数はないが、実習・インターンシップの受け入れ、研究紀要の発行など、順調に実施できている。（項目No.21、22） ○外部資金を活用して、「視覚障がい者に対応した博物館づくり」をテーマに道内の博物館等の職員を対象とした研修会を開催し、博物館のバリアフリー化に向けた利用者の声を認識する機会を創出した。（項目No.23）	A
	②改善・注視を要する取り組み ○外来研究員の制度化に向けて検討を進めることが必要。（項目No.21） ○研究成果の発信として、「新聞・報道対応」と「学会発表」「学術雑誌等への寄稿」を同じウェイトとしてカウントするのは厳しい。（項目No.22） ○学会発表や論文投稿数については、学芸職員の数（30人）に対しての妥当な数字を目標値とするべき。（項目No.22） ○数字の出し方について、明示・共有しておくことが必要。具体的には、「研究成果発信」のうち、「新聞・報道対応」については、2015年以来、学術的な知見の提供以外にも、博物館に関する広報も含めてカウントしていたが、項目別評価シートを見ただけでは、それがわからない。（項目No.22）	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 評価の妥当性の観点から改善を要する課題が浮かび上がったものの、項目別評価は概ね妥当であり、北海道の未来に貢献する研究機関としての活動が着実に進められているものと判断し、総体としてA評価とする。	

総括評価No.	8	対象	アイヌ民族文化研究センター実施分
---------	---	----	------------------

北海道博物館基本的運営方針

4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します。

(2) アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
1	B	・クローズアップ展示3、4の計画策定 計画には多様な分野・テーマを盛り込むよう留意 ・アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施 ・総合展示資料の入れ替え基準を定め、入れ替え計画策定	アイヌ研
2	A	・第14回企画テーマ展の開催。 ・平成31年度の巡回展の開催について策定し実施する。 ・平成32年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定、および特別展開催に関する検討。	アイヌ研
3	A	・各個別課題やその成果に基づく事業の策定・実施。 ・調査研究や研究内容を検討する時間の確保に努め、研究内容を充実させる。	アイヌ研
4	A	・資料の整理・登録・配架の策定 ・計画に基づく資料登録の実施 ・新収蔵資料紹介の継続的実施 ・資料の所在調査等の継続実施	アイヌ研
5	B	・資料群ごとの公開計画の策定 ・計画に基づく新規公開の実施	アイヌ研
6	B	・ウェブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の掲載資料・コンテンツの追加	アイヌ研
7	A	・ホームページ等での情報発信の再開 ・レファレンス記録票の集約・報告時期の定例化	アイヌ研
8	A	・アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施	アイヌ研
9	A	・研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信し、その内容を充実させる。	アイヌ研

総括評価		
視点	(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○学習指導要領の変更等により、アイヌ文化の学習の需要が高まっているため、アイヌ関係のグループレクチャーやレファレンスが多かったと分析できる。	A
	②改善・注視を要する取り組み ○2020年度に民族共生象徴空間がオープンしたが、依然としてアイヌ文化に対する注目度が高い状態が続いていることから、アイヌ関係のグループレクチャーや道内自治体からのレファレンス等の需要が高い状態が続くと考えられる。 ○道内自治体との連携・協力については、自治体がアイヌ文化に関する取組を進める中で、自治体が所蔵している資料のレファレンス等が増えている。過年度には北海道博物館所蔵資料に関する報告会を関連地域で実施して、研究成果を地元と共有したこともあるが、引き続き、地域での文化資源を活かすためにどのような形で北海道博物館が関われるかを検討する必要がある。	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、着実にアイヌ文化の振興に寄与できているものと判断し、総体としてA評価とする。	

総括評価No.	9	対象とする中期目標・計画No.	
---------	---	-----------------	--

外部評価項目 ガバナンス体制の育成 平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。
--

項目別評価の結果			
No	評価基準	目標（値）	担当G
24	B	・課題の共有と解決	総括G
10	B	・研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議等）の定例開催	アイヌ研
25	B	・課題の共有と解決	文化振興課

総括評価		
視点	(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置	評価基準
総評	①評価すべき取り組み ○博物館においては、管理職による「運営会議」を定期的を開催するなどし、博物館内の意思決定の迅速化や情報共有を図るとともに、重要な案件については、本庁とも協議しながら予算の確保にも努め、課題解決に当たっている。（項目No.24）	B
	②改善・注視を要する取り組み ○北海道博物館と本庁（文化振興課）との情報共有・協議については、都度都度行っているが、問題点の整理や進捗の共有を図るために定期的な打ち合わせの機会を持つなど、より密に協力・連携を強化する体制が必要。（項目No.24、25） ○アイヌ民族文化研究センター内においては定期的な打ち合わせを設けているが、結果の共有などは不十分で、引き続き課題。（項目No.10（研究センター番号））	
	③総体的な評価（評価基準の判断根拠） 項目別評価は概ね妥当であり、A評価の項目も見られるものの、課題の共有とその解決に向け、より強固なガバナンス体制・目標管理体制が不可欠と判断し、総体としてB評価とする。	

Ⅱ. 項目別評価

総括評価・項目別評価 項目一覧

【総括評価項目】

- (1) 博物館活動の基盤となる、展示、調査研究等を推進させる措置
- (2) 道民が特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とするための措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.1	未登録資料の整理・受入	17
No.2	公開承認施設としての資料保存環境の整備 ほか	18
No.3	総合展示の維持管理と資料の入替	19
No.4	総合博物館として様々な企画展を計画・実施	20
No.5	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	21
No.6	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	22
No.7	北海道開拓の村歴史的建造物の整備・修繕と 建造物内部展示工事の実施、整備・修繕計画策定 ほか	23

【総括評価項目】

- (3) 利用者の視点に立った博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.8	子ども向けの魅力あるイベントの充実	24
No.9	あらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法の策定	25
No.10	はっけん広場の利用者促進	26
No.11	ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取り組み	27
No.12	アメニティ施設の設置 ほか	28
No.13	サインの仕様や設置費の確保 ほか	29
No.14	野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	30
No.15	利用の促進に直接つながる戦略的な広報体制の強化・実践	31
No.16	「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動	32
No.17	北海道立総合博物館協議会と専門部会の運営と実施 ほか	33

【総括評価項目】

- (4) 道民との連携、協働する博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.17	北海道立総合博物館協議会と専門部会の運営と実施 ほか	33
No.18	道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立	34

【総括評価項目】

(5) 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献する措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.19 質の高い連携による企業や民間団体、博物館、自治体等との 連携・協力事業の実施……………	35
--	----

【総括評価項目】

(6) 道民の知的興味に応える博物館づくりへの措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.20 図書室の蔵書の充実及び利用促進 ほか……………	36
-------------------------------	----

【総括評価項目】

(7) 研究成果を活かし、北海道の豊かな未来の実現に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.21 博物館学芸員の後継者及び博物館のコアユーザー育成 ほか……………	37
No.22 研究成果の多様な発信……………	38
No.23 道民・北海道への総合的な研究機関としての貢献に向けた体制づくり……………	39

【総括評価項目】

(8) アイヌ文化の振興に寄与すると共に多文化共生社会の実現に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.1 クローズアップ展示3、4の計画策定 ほか……………	40
No.2 第14回企画テーマ展の開催 ほか……………	41
No.3 各個別課題やその成果に基づく事業の策定・実施 ほか……………	42
No.4 資料の整理・登録・配架の策定 ほか……………	43
No.5 資料群ごとの公開計画の策定 ほか……………	44
No.6 ウェブサイト（ホームページ）の更新計画の策定 ほか……………	45
No.7 ホームページ等での情報発信の再開 ほか……………	46
No.8 アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施体制……………	47
No.9 研究紀要、企画テーマ展等を通して研究成果を積極的に発信……………	48

【総括評価項目】

(9) 各の措置を実施するために必要なガバナンス体制の確立に向けた措置

〔対象となる項目別評価の目標（値）〕

No.24 課題の共有と解決……………	49
No.10 研究センター会議の定例開催……………	50
No.25 課題の共有と解決……………	51

中期目標・計画番号	1-1	目標値番号	1	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目
1 資料の収集・保存

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
	○			

中期目標・計画 ア 資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。 イ 収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。 ウ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、展示や研究などにより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。	
--	--

令和元年度		令和2年度																																														
年度計画	目標（値）	項目別評価（令和元年度の実施状況）	評価基準																																													
① 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。	未登録資料の整理・受入	達成状況	A																																													
② 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。		<table><tr><th>判断数値</th><th>実績値</th><th>達成度</th><th>評価点</th></tr><tr><td>・資料審査会の実施回数</td><td>11回</td><td>92%</td><td>A</td></tr><tr><td>・受け入れ資料件数</td><td>821件</td><td>274%</td><td>S</td></tr><tr><td colspan="4">その他の達成状況</td></tr><tr><td>① 資料収集方針に基づく資料の収集</td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td>【未実施の項目】 ① 樺太連盟資料の寄贈については、純粋に事務的な手続の遅れのため、次年度に持ち越しとなった。 ④ コレクション受け入れのための工程の再整備、特に収蔵資料の受入・登録に係る書類のフローの見直しによる効率化・簡素化を目指しているが、次年度予定の情報システム（資料管理システム）更新に合わせて実施した方が合理的と判断し、今年度は未実施。</td></tr><tr><td>③ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。</td><td></td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td>【達成度が極度に高い項目】 ① 受入資料件数については、判断数値の274%であったが、毎年恒常的に同じ件数が受入になる訳ではないため、多寡を論じてもあまり意味がない。これによる他業務への負担のしわ寄せは特に見られなかった。</td></tr><tr><td>④ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。特に、収蔵資料の受入・登録に係る書類についてデータ整理の任り方方を整備し、事務手続きの効率化を図る。</td><td></td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td>【計画になかった項目】 ③ 年度計画にはあったが具体的な刊行対象が決まっていなかった『資料目録』については、「フラーシェム・コレクション」を刊行した。 ③ 平成29年度に「弥永コレクション」を『一括資料目録』として刊行したが、これを統合し『北海道博物館資料目録』としてシリーズ化することを決めた。 【今後の課題】 ③ 目録の恒常的刊行のためのフローの確定と規定類の整備が課題。 ④ コレクション受け入れのための工程、資料の受入・登録に係るフローの見直しの実施が課題。 【次期年次計画に向けた留意点】 ① 樺太連盟資料受入が予定。</td></tr><tr><td></td><td></td><td>【実績参考】『要覧2019』33～35ページ</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>【判断数値設定】有 ・資料審査会の実施回数（12回） ・受入資料件数（300件）</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>【資料情報件数】60件 調査収集件数25件</td></tr></table>		判断数値	実績値	達成度	評価点	・資料審査会の実施回数	11回	92%	A	・受け入れ資料件数	821件	274%	S	その他の達成状況				① 資料収集方針に基づく資料の収集	恒常的に実施	○	【未実施の項目】 ① 樺太連盟資料の寄贈については、純粋に事務的な手続の遅れのため、次年度に持ち越しとなった。 ④ コレクション受け入れのための工程の再整備、特に収蔵資料の受入・登録に係る書類のフローの見直しによる効率化・簡素化を目指しているが、次年度予定の情報システム（資料管理システム）更新に合わせて実施した方が合理的と判断し、今年度は未実施。	③ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。		恒常的に実施	○	【達成度が極度に高い項目】 ① 受入資料件数については、判断数値の274%であったが、毎年恒常的に同じ件数が受入になる訳ではないため、多寡を論じてもあまり意味がない。これによる他業務への負担のしわ寄せは特に見られなかった。	④ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。特に、収蔵資料の受入・登録に係る書類についてデータ整理の任り方方を整備し、事務手続きの効率化を図る。		恒常的に実施	○	【計画になかった項目】 ③ 年度計画にはあったが具体的な刊行対象が決まっていなかった『資料目録』については、「フラーシェム・コレクション」を刊行した。 ③ 平成29年度に「弥永コレクション」を『一括資料目録』として刊行したが、これを統合し『北海道博物館資料目録』としてシリーズ化することを決めた。 【今後の課題】 ③ 目録の恒常的刊行のためのフローの確定と規定類の整備が課題。 ④ コレクション受け入れのための工程、資料の受入・登録に係るフローの見直しの実施が課題。 【次期年次計画に向けた留意点】 ① 樺太連盟資料受入が予定。			【実績参考】『要覧2019』33～35ページ					【判断数値設定】有 ・資料審査会の実施回数（12回） ・受入資料件数（300件）							【資料情報件数】60件 調査収集件数25件
判断数値	実績値	達成度		評価点																																												
・資料審査会の実施回数	11回	92%		A																																												
・受け入れ資料件数	821件	274%		S																																												
その他の達成状況																																																
① 資料収集方針に基づく資料の収集	恒常的に実施	○	【未実施の項目】 ① 樺太連盟資料の寄贈については、純粋に事務的な手続の遅れのため、次年度に持ち越しとなった。 ④ コレクション受け入れのための工程の再整備、特に収蔵資料の受入・登録に係る書類のフローの見直しによる効率化・簡素化を目指しているが、次年度予定の情報システム（資料管理システム）更新に合わせて実施した方が合理的と判断し、今年度は未実施。																																													
③ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。		恒常的に実施	○	【達成度が極度に高い項目】 ① 受入資料件数については、判断数値の274%であったが、毎年恒常的に同じ件数が受入になる訳ではないため、多寡を論じてもあまり意味がない。これによる他業務への負担のしわ寄せは特に見られなかった。																																												
④ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。特に、収蔵資料の受入・登録に係る書類についてデータ整理の任り方方を整備し、事務手続きの効率化を図る。		恒常的に実施	○	【計画になかった項目】 ③ 年度計画にはあったが具体的な刊行対象が決まっていなかった『資料目録』については、「フラーシェム・コレクション」を刊行した。 ③ 平成29年度に「弥永コレクション」を『一括資料目録』として刊行したが、これを統合し『北海道博物館資料目録』としてシリーズ化することを決めた。 【今後の課題】 ③ 目録の恒常的刊行のためのフローの確定と規定類の整備が課題。 ④ コレクション受け入れのための工程、資料の受入・登録に係るフローの見直しの実施が課題。 【次期年次計画に向けた留意点】 ① 樺太連盟資料受入が予定。																																												
		【実績参考】『要覧2019』33～35ページ																																														
		【判断数値設定】有 ・資料審査会の実施回数（12回） ・受入資料件数（300件）																																														
				【資料情報件数】60件 調査収集件数25件																																												

中期目標・計画番号	1-2~4	目標値番号	2	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-------	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目
1 資料の収集・保存
(2) 収蔵機能の強化 (3) 資料保存環境の維持 (4) 収蔵資料の利用への対応

フライオリティ					
	H27	H28	H29	H30	H31
(2)	○				
(3)					
(4)					

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

令和元年度		項目別評価（令和元年度の実施状況）				令和2年度			
年度計画	目標（値）	達成状況			自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）	
(2) 収蔵機能の強化 ① 収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。 ② 災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動員と運動しながら、検討を進める。 ③ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。 (3) 資料保存環境の維持 ① 温湿度管理、薬剤対策に頼らない方法による虫害予防対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。 (4) 収蔵資料の利用への対応 ① 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。	・公開承認施設としての資料保存環境の整備 ・データベースの新規登録を進める。	判断数値 資料収蔵環境管理に関する連絡会議 IPMに関わる作業 特別観覧（収蔵資料の熟覧）承認申請数 模写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数 資料貸出申請件数 その他の達成状況 (2) ① 収蔵資料データベースに資料情報を登録 (2) ② 資料移動の記録 (2) ③ 公開情報の更新 (2) ④ 災害発生時に備える体制整備に向けた検討 (2) ⑤ 収蔵スペースの確保 (3) ① 収蔵保存環境の維持 (4) ① 収蔵資料利用への対応	実績値 12 回 411 回 68 件 135 件 20 件 935件 恒常的に実施 実践しつつ検討のみ 恒常的に実施 恒常的に実施 恒常的に実施	達成度 100% 103% 136% 104% 100% 実施 ○ ○ ○ ○ ○	【未実施の項目】 (2) ① 資料データベースの公開情報は特に追加等ではできなかった。 【今後の課題】 (2) ② 被災資料の受入や保存処理などについては、一部の災害協会・北海道実践しつつ、日本博物館協会・北海道博物館協会などと連携しているが、機能・体制整備は継続課題である。 【次期年度計画に向けた留意点】 (2) 次年度には情報システム（資料管理システム）更新を予定しており、恒常的な運用に加えて、システムの移行を滞りなく進める必要がある。 (3) ① 受入予定の棟太連盟資料はこれまでの収蔵庫とは別の部屋に収納するため、収蔵環境の管理は特に留意する必要がある。 【その他特記事項】 中期目標にある「出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化する」については、次年度予定の情報システム（資料管理システム）更新に合わせて検討・実施するべきである。	A	内容（計画達成に向けた具体的業務） (2) 収蔵機能の強化 ① 収蔵資料データベースの適切かつ安全な運用・更新 ② 情報システム更新およびそれに伴う資料データベース等の適切な移行 ③ 収集した揮運資料のアーカイブ化 ④ 収蔵スペースの確保に向けた検討・取組 ⑤ 災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討・取組 (3) 資料保存環境の維持 ① 適切な資料保存環境の維持に向けた取組 ・収蔵環境の測定（捕虫トラップの設置・回収と調査、落下菌測定等） ・清掃（収蔵庫清掃、展示室大掃除） ・備品・資料への措置（展示ケースの化学物質の除去作業等） ・収蔵庫内の除湿機稼働等 ② 文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の更新 (4) 収蔵資料の利用への対応 ① 資料の貸出への対応 ② 資料の特別観覧（収蔵資料の熟覧）への対応 ③ 模写品等使用（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）への対応（北海道博物館資料・開拓の村建造物）	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持 新規立ち上げ 前年度の業務内容・実績を維持	【判断数値設定】 有 ○資料の貸出への対応 25件500点 ○特別観覧（収蔵資料の熟覧）への対応 70件1,000点 ○模写品等使用（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）への対応 120件300点（北海道博物館資料） 40件150点（開拓の村建造物）

中期目標・計画番号	2-1	目標値番号	3	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目
2 展示
(1) 総合展示室の運営

フライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	×
	21	18		3

中期目標・計画 ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がい、有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。 イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。 ウ 総合展示のメンテナンスに努める。 ★総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値（5年間） 総合展示室利用者数 362,000人（うち外国人利用者数 19,000人）

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標（値）	項目別評価（令和元年度の実施状況）	年度計画（案）
① 総合展示の定期的な入替えを実施する。	・総合展示の維持管理と資料の入替 ・総合展示室利用者数 72,400人 うち外国人利用者数 4,000人	達成状況	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 総合展示室における展示資料の入替え ② クローズアップ展示コーナーの更新 ③ 来館者参加型展示コーナーの入替え ④ 第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え ⑤ 学芸員紹介コーナーの入替え ⑥ 休憩ラウンジにおける道民参加型展示 ⑦ 総合展示の展示資料目録を公開・更新する。 ⑧ 【重点／新規】収集した韓連資料に関する展示 ⑨ 【新規】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成・取組
② 総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。			
③ すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。			
④ 総合展示のメンテナンスに努める。			
⑤ 総合展示の防犯体制の見直しを進める。			
⑥ 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。			
		自己評価	評価基準
		【未実施の項目】 ③すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討、⑤防犯体制の見直しについては未実施。 【計画になかった項目】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2月29日より年度未まで臨時休館という前代未聞の事態となり、このほぼ1か月分は利用者数がゼロとなった。 【今後の課題】 ③すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討、⑤防犯体制の見直しの実施が課題。 【次期年度計画に向けた留意点】 ③⑤⑥について、次年度以降で総合展示の部分改修（改訂）について検討を進めていく中で意識して盛り込んでいく必要がある。	A
		【判断数値設定】 有	【判断数値設定】 有
		・クローズアップ展示の件数（23件） ・総合展示室の展示品の入替件数（40件）	① 総合展示室の展示品の入替 40件 ② クローズアップ展示コーナーの更新 27件 ③ 来館者参加型展示コーナーの入替え 4件 ④ 第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え 3件 ⑤ 学芸員紹介コーナーの入替え 1回

中期目標・計画番号	2-2	目標値番号	4	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目
2 展示
(2) 企画展示の開催

フライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計	計	7	0	X	1
--------	---	---	---	---	---

中期目標・計画 アイ 他館との連携・協働、企画・協働、企画・協働の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実施する。 ウ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。 ★特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値（5年間） 特別展示室利用者数 288,000人

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）
① 魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。 ② 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。 ③ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。 （※ 来年度の企画展示については、今年度同様、特別展1回、企画展3回、外部連携展示1回を計画しているため、今年度同様80,000人を目標値とする。過去の企画展示を分析した結果、満足度目標値90%は、多様な意見の方がいるなかで、現実的な目標値ではないと考えられる。したがって、現実的な目標値として85%を設定する）	目標（値） ・総合博物館として様々な企画展示を計画・実施 ・特別展示室利用者数 80,000人 【判断数値設定】 有 ・企画展示の利用者数と満足度（80,000人／85%） ・その他、館内外で実施した展示件数（2件）	達成状況 目標（値） 特別展示室利用者数 69,388人 87% B 企画展示の満足度 95.0% 112% A その他、館内外で実施した展示（特別展・企画展・展以外） ① 他機関との連携による企画展示の開催 ② 研究成果を反映した展示の実施 ③ 収蔵資料を積極的に公開する展示の実施 ④ 道民参加型の企画展示の実施 ⑤ 次年度以降の企画展示の計画・準備 【実績参考】『要覧2019』39～42ページ	評価基準 A （達成度が極めて高い項目） ・館内外で実施した展示について「HIO」があり、かつ、アイヌ巡回展を計画より多く3回開催したため達成度が上がった。 【計画になかった項目】 ・新型コロナウイルス感染症により2月29日より年度未まで臨時休館となり、4月5日まで開催予定だった企画テーマ展「北海道神宮」がこの間中止となり、利用者数にも反映されている。事前調査等にも支障が出た。 【今後の課題】 ①引き続き、魅力的な企画展示を実施できるためには前年度以前からの準備を充実させる必要があるが、現状では実施グループの決裁のタイミングが遅いため、早めに準備組織を立ち上げ、博物館としての公式な活動として外部との交渉・事前調査等の準備ができる様にする必要がある。 ②特別展に関しては、マスメディア等と連携した集客重視のテーマとする場合もあるが、一方では、令和元年度開催の特別展「アイヌ語地名と北海道」のように、博物館としての独自の研究成果を反映した「地に足のついた」テーマも開催することになっており、そのバランスを図る必要がある。 ③企画展への道民参加の割合は十分とは言えず、企画時点で担当職員に意識するよう促すと共に、制度設計を検討する必要がある。 【次期年次計画に向けた留意点】 ①マスメディアとも連携した大型特別展「恐竜展2020」を実施予定であり、他の企画展や他業務とのバランスを取り、館全体の運営に支障がないよう注意する必要がある。

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	5	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目
3 調査研究
(1) 調査研究の推進

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会を提供につなげる。
イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を図る。
ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

点検項目集計	計	○	○	×
	15	13	2	

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標(値)	年度計画(案)	目標(値)(案)
① 新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト5課題「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト3課題を実施する。最終年度となる2課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。	総合博物館として幅広い研究プロジェクトの計画・実施	内容(計画達成に向けた具体的業務) ① 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト5課題 ② 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト3課題の実施 ③ アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト2課題 ④ 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施 ⑤ サハリン州郷土博物館(ロシア・サハリン州)と協定書を調印、サハリンから研究者を招聘 ⑥ ロイヤル・アルバータ博物館(カナダ・アルバータ州)から研究者を招聘 ⑦ 【重点/新規】収集した関連資料に関する調査研究 ⑧ 定例研究報告会の実施	前年度の業務内容・実績を維持 前年度の重点課題(優先度↑) 前年度の業務内容・実績を維持
② 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的な仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。	無	【未実施の項目】 ② 調査研究への道民参加については既に一部の研究課題で実施しているが、調査研究ワーキングチーム等における規定の整備など制度設計に関する検討は進まなかった ③ サハリン州郷土博物館との共同研究の成果報告書については、他業務との兼ね合いで刊行を実現できなかった ④ 定例研究報告会への外部講師の招へいは未実施。 【計画になかった項目】 ①③新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月以降は調査のための出張等がほぼ不可能となり、遂行に支障が出た研究課題もあった。 【今後の課題】 ③ 海外共同研究の成果報告書に関しては、実際には研究紀要の執筆や翌年度の企画展の準備等、他業務と重複する時期になる可能性が高く、刊行実現の為に極めて高度な業務調整が必要である。 ④ 定例研究報告会への外部講師の招へいは、定例研究報告会の開催形態自体の再検討と合わせて今後の課題とする。 【次期年次計画に向けた留意点】 ① ひきつづき新型コロナウイルス感染症拡大防止のために調査出張が制限されるなどの影響が予想される。 ② 次年度はサハリン州郷土博物館との共同研究については賞書調印の年度にあたり、新たな5年間の課題を調整・決定する必要がある。	【判断数値設定】 有 ⑥ 定例研究報告会の実施 12回
③ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。5ヶ年の最終年にあたるサハリン州郷土博物館との共同研究については、成果をとりまとめ、報告書を刊行する。	無	⑤ 月1回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。	
④ 月1回の定例研究報告会を継続して実施。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。	無		
【実績参考】『要覧2019』22~31ページ			

中期目標・計画番号	3-1	目標値番号	6	担当	学芸部博物館基盤グループ
-----------	-----	-------	---	----	--------------

第1期中期目標・計画項目
3 調査研究
(1) 調査研究の推進

フライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事業に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
イ 道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を図る。
ウ 外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ 北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、類似点のある地域の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ 館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

点検項目集計	計	○	○	×
	15	0	0	0

令和元年度		令和2年度																								
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）																							
① 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について協議を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。 ② その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。	科学研究費補助金等の公的機関等からの研究費の獲得	達成状況 <table><tr><th>達成状況</th><th>主な実績（実施の根拠）</th><th>実施</th></tr><tr><td>① 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げる</td><td>研究紀要などに成果を投稿</td><td>○</td></tr><tr><td>① 館として取り組むべき研究課題のあり方について協議を進める</td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>① 科学研究費補助金について新規課題を申請</td><td>11 課題</td><td>○</td></tr><tr><td>② その他の外部資金について、申請などの手続きを行う。</td><td></td><td>○</td></tr></table> 【実績参考】『要覧2019』22～31ページ	達成状況	主な実績（実施の根拠）	実施	① 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げる	研究紀要などに成果を投稿	○	① 館として取り組むべき研究課題のあり方について協議を進める		×	① 科学研究費補助金について新規課題を申請	11 課題	○	② その他の外部資金について、申請などの手続きを行う。		○	<table><tr><th>内容（計画達成に向けた具体的業務）</th><th>前年度比</th></tr><tr><td>① 科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔12課題＋新規分〕</td><td>前年度の業務内容・実績を維持</td></tr><tr><td>② 科学研究費による研究（当館職員が研究分担者であるもの）の実施〔5課題＋新規分〕</td><td></td></tr><tr><td>③ 科学研究費以外の競争的外部資金による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔1課題＋新規分〕</td><td></td></tr></table>	内容（計画達成に向けた具体的業務）	前年度比	① 科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔12課題＋新規分〕	前年度の業務内容・実績を維持	② 科学研究費による研究（当館職員が研究分担者であるもの）の実施〔5課題＋新規分〕		③ 科学研究費以外の競争的外部資金による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔1課題＋新規分〕	
達成状況	主な実績（実施の根拠）	実施																								
① 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げる	研究紀要などに成果を投稿	○																								
① 館として取り組むべき研究課題のあり方について協議を進める		×																								
① 科学研究費補助金について新規課題を申請	11 課題	○																								
② その他の外部資金について、申請などの手続きを行う。		○																								
内容（計画達成に向けた具体的業務）	前年度比																									
① 科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔12課題＋新規分〕	前年度の業務内容・実績を維持																									
② 科学研究費による研究（当館職員が研究分担者であるもの）の実施〔5課題＋新規分〕																										
③ 科学研究費以外の競争的外部資金による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施〔1課題＋新規分〕																										
項目別評価（令和元年度の実施状況）		自己評価	評価基準																							
		【未実施の項目】 ①科学研究費補助金について、館として取り組むべき研究課題のあり方に関する議論は特に実施しなかった。 【計画になかった項目】 ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のために2月以降は調査のための出張等がほぼ不可能となり、遂行に支障が出た研究課題もあった。 【今後の課題】 ①科学研究費補助金について、館として取り組むべき研究課題のあり方に関する議論を進める必要がある。 【次期年次計画に向けた留意点】 ①ひきつづき新型コロナウイルス感染症拡大防止のために調査出張が制限されるなどの影響が予想される。	A																							
目標（値）		【判断数値設定】 無																								

中期目標・計画番号		4	目標値番号	7	担当	総務部企画グループ	
第1期中期目標・計画項目							
4 北海道開拓の村の整備							
中期目標・計画							
ア 北海道開拓の村に移築・復元されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。							
イ 建造物内の展示の充実に取り組む。							
令和元年度							
年度計画		目標（値）		項目別評価（令和元年度の実施状況）			
① 北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物（旧武井商店酒造部、旧三ツ河本そば屋）補修工事を実施する（建設部）。		・北海道開拓の村歴史的建造物の整備・修繕と建造物の内部展示工事の実施・整備・修繕計画策定。 ・歴史的建造物の内部展示の改修計画の策定。		達成状況			
② 建設部と歴史的技術及び文化財補修法等に関する協議を行う。		・歴史的建造物の内部展示の改修計画の策定。		自己評価			
③ 平成32年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。		【判断数値設定】		評価基準			
④ 北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂整備計画を策定する。		無		B			
令和2年度		年度計画（案）		目標（値）（案）			
内容（計画達成に向けた具体的業務）		前年度比		前年度比			
① 旧近藤染舗の補修工事実施設計		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
② 旧小樽新聞社の実施設計		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
③ 旧樋口家農家住宅の老朽度調査		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
④ 旧岩間家農家住宅の老朽度調査		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
⑤ 令和元年6月の落雷により故障した火災報知設備等の修繕実施設計（延べ31か所）		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
⑥ スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による総合展示室の多言語解説サービス運用・検証・改善		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
⑦ 開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計52棟＋インフラ）		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
⑧ 開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計52棟）		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			
⑨ 「はっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組の検討		前年度の業務内業務・実績を維持		前年度比			

中期目標・計画番号	5-1	目標値番号	8	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	---	----	---------------

第1期中期目標・計画項目
5 教育普及事業

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
◎	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	×
		9	9	0

中期目標・計画 (1) 魅力あるイベントの充実 ア 総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できているイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。 イ 調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。 ウ 学校団体をはじめとした各種団体による利用を促進するために、グループを対象としたレクチャーや「はっけん広場」での「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。 エ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。 オ イベントやプログラムの充実にあたっては、特にアイヌ文化や北海道の自然に関する事業を重点的に強化する。 ★イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値（5年間） イベント参加者数 16,000人

令和元年度		令和2年度																																																																																									
年度計画	目標（値）	項目別評価（令和元年度の実施状況）	年度計画（案）																																																																																								
① 「ハライイトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。	・子ども向けの魅力あるイベントの充実 イベント参加者数 12,000人 【参考】 前年度 17,342人 過去4年平均 13,650人	達成状況 <table><tr><th>目標（値）</th><th>実績値</th><th>達成度</th><th>評価</th></tr><tr><td>イベント参加者数</td><td>16,626人</td><td>139%</td><td>A</td></tr><tr><td>判断数値</td><td>実績値</td><td>達成度</td><td>評価</td></tr><tr><td>ちやれんが子どもクラブ （「子どもワークショップ」に改称）</td><td>11 件</td><td>85%</td><td>B</td></tr><tr><td>グループレクチャー</td><td>420 人</td><td>76%</td><td>B</td></tr><tr><td>うち中学生以下</td><td>115 件</td><td>96%</td><td>A</td></tr><tr><td></td><td>8,479 人</td><td>116%</td><td>A</td></tr><tr><td></td><td>62 件</td><td>89%</td><td>B</td></tr><tr><td></td><td>4,222 人</td><td>101%</td><td>A</td></tr><tr><td>はっけんプログラム</td><td>108 件</td><td>49%</td><td>B</td></tr><tr><td></td><td>6,558 人</td><td>94%</td><td>A</td></tr><tr><td>その他の達成状況</td><td>主な実績（実施の根拠）</td><td>実績</td><td></td></tr><tr><td>① 総合展示室内での展示解説</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ハライイトツアー参加者</td><td>1,003人</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>ハンズオン参加者</td><td>1,141人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>② 体験型イベント</td><td>12件</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>③ 講座・講演会</td><td>23件</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>④ 学校教員向け研修会</td><td>1件</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>⑤ バックヤードツアーなど</td><td>4件</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>⑥ 満足度調査</td><td>5回</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>⑦ 展示解説検討</td><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>【実績参考】『要覧2019』</td><td>44～45、52～53ページ</td><td></td><td></td></tr></table>	目標（値）	実績値	達成度	評価	イベント参加者数	16,626人	139%	A	判断数値	実績値	達成度	評価	ちやれんが子どもクラブ （「子どもワークショップ」に改称）	11 件	85%	B	グループレクチャー	420 人	76%	B	うち中学生以下	115 件	96%	A		8,479 人	116%	A		62 件	89%	B		4,222 人	101%	A	はっけんプログラム	108 件	49%	B		6,558 人	94%	A	その他の達成状況	主な実績（実施の根拠）	実績		① 総合展示室内での展示解説				ハライイトツアー参加者	1,003人		○	ハンズオン参加者	1,141人			② 体験型イベント	12件		○	③ 講座・講演会	23件		○	④ 学校教員向け研修会	1件		○	⑤ バックヤードツアーなど	4件		○	⑥ 満足度調査	5回		○	⑦ 展示解説検討			×	【実績参考】『要覧2019』	44～45、52～53ページ			【未実施の項目】 ・展示解説検討は、総合展示室における解説活動のあり方検討をまわって本格的に行う予定であり、未実施。 【達成度が極度に低い項目】 ・はっけんプログラムの件数については、平成30年度に114件であったことをのみえたと大幅な減ではない。ただ、平成30年度は337件であった学校団体が316件と微減したことで、平成30年度は147件であったグループレクチャーが115件と減少したことを含め、実施可能なプログラムへの改善や周知を含め、学校側へのより一層の働きかけが必要と考えられる（平成29年度実績は、学校団体284件、はっけんプログラム111件、グループレクチャー137件）。 【今後の課題】 ・会計年度任用職員制度の導入に伴う解説員制度の再編を含め、総合展示室やはっけん広場における解説活動のあり方を検討していく必要がある。
目標（値）	実績値	達成度	評価																																																																																								
イベント参加者数	16,626人	139%	A																																																																																								
判断数値	実績値	達成度	評価																																																																																								
ちやれんが子どもクラブ （「子どもワークショップ」に改称）	11 件	85%	B																																																																																								
グループレクチャー	420 人	76%	B																																																																																								
うち中学生以下	115 件	96%	A																																																																																								
	8,479 人	116%	A																																																																																								
	62 件	89%	B																																																																																								
	4,222 人	101%	A																																																																																								
はっけんプログラム	108 件	49%	B																																																																																								
	6,558 人	94%	A																																																																																								
その他の達成状況	主な実績（実施の根拠）	実績																																																																																									
① 総合展示室内での展示解説																																																																																											
ハライイトツアー参加者	1,003人		○																																																																																								
ハンズオン参加者	1,141人																																																																																										
② 体験型イベント	12件		○																																																																																								
③ 講座・講演会	23件		○																																																																																								
④ 学校教員向け研修会	1件		○																																																																																								
⑤ バックヤードツアーなど	4件		○																																																																																								
⑥ 満足度調査	5回		○																																																																																								
⑦ 展示解説検討			×																																																																																								
【実績参考】『要覧2019』	44～45、52～53ページ																																																																																										
② 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。																																																																																											
③ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。																																																																																											
④ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。	【判断数値値設定】 有 ・ちやれんが子どもクラブ 13 件 参加者数 550 人 ・グループレクチャー 120 件 参加者数 7,300人 うち中学生以下 実施件数 70 件、 参加者数 4,200人 ・はっけんプログラム 実施件数 220 件 参加者数 7,000人																																																																																										
⑤ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施するとともに、同目的の行事について、より多様な展開を検討する。																																																																																											
⑥ 利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。																																																																																											
⑦ 展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。																																																																																											
			【判断数値設定】 有 ・諸行事の実施 48件63回																																																																																								
			【参考】 前年度 16,626人 過去5年平均 14,245人																																																																																								

中期目標・計画番号	5-2	目標値番号	9	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	---	----	---------------

第1期中期目標・計画項目	令和2年度からの第2期中期目標・計画項目(原案)では、項目名変更。
5 教育普及事業	5 教育普及 (2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実
(2) 教材の充実	

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画
情報・通信技術を活用した機器 (ICT機器) による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。

令和元年度	令和2年度
年度計画	年度計画 (案)
目標 (値)	目標 (値) (案)
① 「ウイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しむことができ教材の開発について検討する。 ② より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。 ③ 学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材を開発について検討する。 ④ 昨年度開発・公開した学校団体に向けワークシートについて検証し、改善点を改善する。 ⑤ ちゃれんがラリーの開発、多言語解説の充実化、プロモーションビデオの制作などが概ね実現したなかで、障がい者向けの教材開発なども含め、あらためてあらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法を検討する。 ⑥ 特に、昨年度から取り組みはじめた視覚障がい者にとって利用しやすいように、より具体的な施策、教材開発を進めていく。	なし ① 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 [10メニュー] ② はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 [6メニュー] ③ スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケッ学芸員」による総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 [現在6カ国語、374コンテンツ] ④ 展示解説器 (音声ガイド) を利用した総合展示室多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 [6カ国語、67コンテンツ] ⑤ 学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充 ⑥ 令和元年度に開発した視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充 ⑦ 令和2年度より学校教育用補助教材の貸出を本格実施
達成状況 (検討会議実施数) 主な実績 (実施の根拠) 実施 ① 教材開発の検討 X ② 多言語解説の検討 X ③ 学校向け教材開発の検討 X ④ ワークシートの改善 X ⑤ バリアフリー教材の開発 X ⑥ 視覚障がい者向け教材の開発 X 【実績参考】『要覧2019』60～61ページ 年度計画以外の事業実施 ・「おうちミュージアム」 新型コロナウイルス感染症のために小中学校の長期休校が実施されたため、家庭で楽しみながら学びながらコンテンツをダウンロードできるページを令和2年3月から公開した。また、この取組を広げるため、「おうちミュージアム」の名称・ロゴマーク等を地施設と共有した。 ・北海道博物館による提供コンテンツ 19種 ・道内外の参加機関 33施設 【参考】『要覧2019』55ページ	【未実施の項目】 ①～④については、本格的な検討には至らなかった。ただ、例えば、②については特別展に際して展示解説シート (英語版) を作成したこと、③については「博物館教育プログラム研修会」を通じてアンケート等で意見を募ったこと、④については小中学校団体の利用状況を観察し設問方法等を一部検証したことなど、適宜、検討を進めてきた。 【計画になかった項目】 ・新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした臨時休校・臨時休館に伴い、おうちミュージアムを実施した。 【今後の課題】 ・北のミュージアム活性化北実行委員会との連携で研修会「視覚障がい者対応した博物館づくりに向けて」を開催したことは、⑤⑥の展開に向けて成果と言える。今後は、まずは⑥、その上で⑤について本格的に検討を進めていく必要がある。 【評価基準の考え方】 ・未実施の項目も多いが、それぞれ改善に向けた検討を進めたこと、年度計画にはなかった「おうちミュージアム」を実施したこと、さらに、本項目は総合的に「A」と自己評価した。
評価基準 A	

中期目標・計画番号	5-3	目標値番号	10	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目
5 教育普及事業
(3) はっけん広場の運営

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎

点検項目集計					
計		6	5	1	X

中期目標・計画 ア 「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者とスタッフの交流の輪を育む。 イ 学校現場など、利用者の声も反映させながら、「はっけんキット」や「はっけんプログラム」の改良や開発、「はっけんイベント」の充実を図める。 ウ 博物館利用促進の一環として、学校など、館外への「はっけんキット」の貸出しを推進する。 ★はっけん広場利用者の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値(5年間) はっけん広場利用人数 100,000人

令和元年度		令和2年度																																																											
年度計画	目標（値）	項目別評価（令和元年度の実施状況）	年度計画（案）																																																										
① 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。	・はっけん広場の利用者促進 ・はっけん広場利用者数 20,000人 【参考】 前年度 21,214人 過去4年平均 25,914人	達成状況 <table><thead><tr><th>目標（値）</th><th>実績値</th><th>達成度</th><th>評価点</th></tr></thead><tbody><tr><td>はっけん広場利用者数</td><td>17,122人</td><td>86%</td><td>B</td></tr><tr><td>判断数値</td><td>実績値</td><td>実績/目標</td><td>評価点</td></tr><tr><td>はっけん広場利用者数</td><td>17,122人</td><td>86%</td><td>B</td></tr><tr><td>はっけんプログラム実施件数</td><td>108件</td><td>49%</td><td>B</td></tr><tr><td>はっけんイベント参加者数</td><td>1,920人</td><td>71%</td><td>B</td></tr><tr><td>はっけんキット貸出し件数</td><td>1件</td><td>10%</td><td>B</td></tr><tr><td>その他の達成状況</td><td>主な実績（実施の根拠）</td><td>実施</td><td></td></tr><tr><td>① はっけん広場の運営</td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>② はっけん広場の充実</td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>③ はっけんキットの開発等</td><td>「はめこみ地図」</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>④ はっけんキットの貸出し</td><td>申請書式等公開</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>⑤ はっけんキットの把握</td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>⑥ はっけん広場の広報・誘導</td><td>恒常的に実施</td><td>○</td><td></td></tr></tbody></table> 【実績参考】『要覧2019』48～49ページ	目標（値）	実績値	達成度	評価点	はっけん広場利用者数	17,122人	86%	B	判断数値	実績値	実績/目標	評価点	はっけん広場利用者数	17,122人	86%	B	はっけんプログラム実施件数	108件	49%	B	はっけんイベント参加者数	1,920人	71%	B	はっけんキット貸出し件数	1件	10%	B	その他の達成状況	主な実績（実施の根拠）	実施		① はっけん広場の運営	恒常的に実施	○		② はっけん広場の充実	恒常的に実施	○		③ はっけんキットの開発等	「はめこみ地図」	○		④ はっけんキットの貸出し	申請書式等公開	○		⑤ はっけんキットの把握	恒常的に実施	○		⑥ はっけん広場の広報・誘導	恒常的に実施	○		自己評価 【達成度が極度に低い項目】 ・はっけんプログラムの件数については、平成30年度に114件であったことをふまえると大幅な減ではない。 ・はっけん広場の利用者数、はっけんイベントの参加者数が目標値を下回り、平成30年度比（利用者数19,673人、参加者数2,738人）でも減少しているが、北海道博物館の利用者数の減少と連動していると推定される。 【今後の課題】 ・はっけんキットの貸出し件数が目標を大幅に下回っているが、貸出しに係る申請書様式や貸出し教材一覧のHPでの公開は行えたので、今後、学校側への周知や教材の充実を含めて、積極的に展開していく必要がある。	評価基準 A	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 「はっけんキット」の運用〔一般来館者向け、41メニュー〕 ② 「はっけんプログラム」の実施〔学校団体向け、6メニュー〕 ③ 「はっけんイベント」の実施〔一般来館者向け、年間7メニュー〕 前年度比 前年度の業務内容・実績を維持
目標（値）	実績値	達成度	評価点																																																										
はっけん広場利用者数	17,122人	86%	B																																																										
判断数値	実績値	実績/目標	評価点																																																										
はっけん広場利用者数	17,122人	86%	B																																																										
はっけんプログラム実施件数	108件	49%	B																																																										
はっけんイベント参加者数	1,920人	71%	B																																																										
はっけんキット貸出し件数	1件	10%	B																																																										
その他の達成状況	主な実績（実施の根拠）	実施																																																											
① はっけん広場の運営	恒常的に実施	○																																																											
② はっけん広場の充実	恒常的に実施	○																																																											
③ はっけんキットの開発等	「はめこみ地図」	○																																																											
④ はっけんキットの貸出し	申請書式等公開	○																																																											
⑤ はっけんキットの把握	恒常的に実施	○																																																											
⑥ はっけん広場の広報・誘導	恒常的に実施	○																																																											
② はっけん広場をさらに魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場のさらなる充実化にむけた取組を継続して行なう。																																																													
③ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。																																																													
④ 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。	【判断数値設定】有 ・はっけん広場利用者数（20,000人）		【判断数値設定】有																																																										
⑤ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。	・はっけんプログラムの実施件数（220件）																																																												
⑥ 館外への貸出し用の「はっけんキット」を整備するとともに、貸出制度を確立した後、貸出しを促進するための取組を進める。	・はっけんイベント参加者数（2,700人） ・はっけんキットの貸出し件数（10件）																																																												
⑦ 引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。																																																													
⑧ はっけん広場の魅力を高めることはもちろん、館外への広報および来館者への周知を強化するとともに、来館者をはっけん広場に導く工夫を検討する。																																																													

中期目標・計画番号	6	目標値番号	11	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	---	-------	----	----	-------------

第1期中期目標・計画項目
6 ミュージアムエデュケーター機能の強化事業

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○	○	○	○	○

点検項目集計	計	○	○	×
	4	3	1	

中期目標・計画 (1) 魅力あるイベントの充実 アー一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員専門的知識及び技能の向上を図る。 イ 道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用促進のための取組を進める。
--

令和元年度		項目別評価 (令和元年度の実施状況)			令和2年度	
年度計画	目標 (値)	達成状況		自己評価	年度計画 (案)	目標 (値) (案)
① 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。	ミュージアムエデュケーター機能の強化に関する取り組み	判断数値 博物館の教育普及活動に係る研修会等への参加	実績値 6 件	達成度 評価 150% A	内容 (計画達成に向けた具体的業務) ① 文化庁や北海道博物館協会 (およびそのブロック組織) 等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持
② 館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。		その他の達成状況 ① 館内外への研修会などへの参加	67 件	168% A	② 解説員研修の実施 ③ 令和元年度に実施した研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりに向けて」(主催: 北のミュージアム活性化実行委員会) において得られた知見と技術を博物館内で共有	
③ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。		① 職員の専門的知識及び技能の向上 ② 館外での研修の成果を館内で共有する仕組みづくり	恒常的に実施	○	④ 「博物館教育プログラム研修会」の実施	
【判断数値設定】 有 ・博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数 (4件7人) ・当館が実施する教員対象の研修会への参加人数 (40人)		③ 教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施	1回 (博物館教育プログラム研修会)	○		
		【実績参考】『要覧2019』54、109ページ				

中期目標・計画番号	8-1	目標値番号	12	担当	総務部総括グループ
-----------	-----	-------	----	----	-----------

第1期中期目標・計画項目	ブライオリティ				
8 施設及び周辺環境の整備	H27	H28	H29	H30	H31
(1) 館内施設の整備と活用	○				

中期目標・計画	点検項目集計				
ア 休憩スペース、キッズ・コーナー、ミュージアムショップ、カフェなど、アメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップに イ 記念ホール、講堂、グラントホールなどの一層の活用を図る。	計	○	○	×	
	8	5	3		

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）
① アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。	・アメニティ施設 の設置	内容（計画達成に向けた具体的業務）	前年度比
② オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。	・オリジナルグッ ズの販売	① 屋上スカイビューの特別開放を実施	前年度の 業務内 容・実績 を維持
③ 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。	・施設の活用に向 けた基準の策定	② 令和元年度に視覚障がい者を含む利便 性向上を目的として整備した階段の段差識 別シートおよびトイレ誘導看板の運用・検 証	
		③ 第6回特別展「恐竜展 2020」等に 連動したオリジナルグッズの開発	前年度の重点 課題を通常 モードに優先 度↑）
		④ 老朽化した設備の補修・取替	前年度の 業務内 容・実績 を維持
		⑤ 総合展示室その他館内における案内板 等のユニバーサルカラー化等、視覚障がい に配慮した博物館づくりに向けた検討・取 組	
		⑥ 記念ホールおよびグラントホールの一 層の活用に向けた検討・取組	
			【判断数値設定】 ・設置した設備件 数とその内訳
			・新たに開発、販 売したオリジナル グッズ件数
			・基準の策定と施 設の活用件数
			【今後の課題】 ・アメニティ施設の充実や新たなオ リジナルグッズの開発については、 指定管理者との調整も必要となる が、指定管理期間（4年間）の問題 など、現行制度下では新たな商品開発 等は困難であるなどの課題がある。 ・記念ホールなど施設の活用に関し ては、道として策定した「ほつかい どう歴史・文化・自然「体感」交流 空間構想」に関する今後の活用イ メージにおいて「ユニークベニュー の推進」を掲げており、こうした方 針に基づく取組の中で必要な財源の 確保も視野に入れた検討が必要。

中期目標・計画番号	8-2	目標値番号	13	担当	総務部総括グループ
-----------	-----	-------	----	----	-----------

第1期中期目標・計画項目
8 施設及び周辺環境の整備
(2) 周辺環境の整備

プライオリティ				
H27	H28	H29	H30	H31
○				

中期目標・計画	野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。
ア 公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。	
イ 野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。	
ウ 野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。	

点検項目集計	計	○	×
	4	1	3

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）
① サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。	・サインの仕様や設置費の確保、設置箇所等の検討、土地所有者への協力依頼	内容（計画達成に向けた具体的業務）	前年度比
② 屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開館日の10:00～16:00に開放する。		① 野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修	前年度の業務内容・実績を維持
		② JFR北海道、JFR北海道バス、指定管理者等と連携し、特にインバウンドを対象としたアクセス向上に向けた検討・取組	新規立ち上げ
		③ 平成30年度の台風被害や令和元年度のヒグマ出没等をふまえ、野幌森林公園の健全性と安全性の確保に向けた検討・取組	前年度の業務内容・実績を維持
		④ サインの統一化に向けた検討・取組	
		⑤ 野外展示の具体化に向けた検討・取組	
【判断数値設定】 無		【判断数値設定】	

項目別評価（令和元年度の実施状況）		自己評価	評価基準
達成状況	【未実施の項目】	B	
① サインの統一化のための検討	主な実績（実施の根拠）	・「目標値番号12」と同様の理由などにより、公園内のサインの統一化に関する関係機関との協議を進められなかった。	
② 屋上スカイビューの実施回数・参加者	8回 1,683人	【達成度が極端に低い項目】 ・屋上スカイビューの開放については、実施回数は昨年度と同じ8回であったが、ヒグマ出没による6月以降の来館者減少の影響により、参加者は1,314人の減少となった。	
		【今後の課題】 ・サインの統一化の協議について、設置費の予算確保が最大の課題となるが、「交流空間構想」に基づく今後の取組の中で、公園内の案内板の多言語化を含めたサイン改修のほか、公共交通機関によるアクセスの利便性向上に必要な多言語表示の整備など、その財源確保も視野に入れた検討が必要。	

中期目標・計画番号		8-3		目標値番号		14		担当		総務部総括グループ	
第1期中期目標・計画項目 8 施設及び周辺環境の整備 (3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進											
中期目標・計画 北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。											
令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
年度計画		年度計画		年度計画		年度計画		年度計画		年度計画	
目標(値)		目標(値)		目標(値)		目標(値)		目標(値)		目標(値)	
① ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。		① 野幌森林公園内の利便性と満足度の向上		① 野幌森林公園内の利便性と満足度の向上		① 野幌森林公園内の利便性と満足度の向上		① 野幌森林公園内の利便性と満足度の向上		① 野幌森林公園内の利便性と満足度の向上	
【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有	
・連絡会議の実施件数(12件)		・連絡会議の実施件数(12件)		・連絡会議の実施件数(12件)		・連絡会議の実施件数(12件)		・連絡会議の実施件数(12件)		・連絡会議の実施件数(12件)	
・一体的に行った広報の件数(10件)		・一体的に行った広報の件数(10件)		・一体的に行った広報の件数(10件)		・一体的に行った広報の件数(10件)		・一体的に行った広報の件数(10件)		・一体的に行った広報の件数(10件)	
達成状況		達成状況		達成状況		達成状況		達成状況		達成状況	
判断数値		実績値		達成度		評価		達成状況		達成状況	
連絡会議の実施件数		10件		83%		B		達成状況		達成状況	
一体的に行った広報の件数		11件		110%		A		達成状況		達成状況	
その他の達成状況		主な実績(実施の根拠)		実施				達成状況		達成状況	
① 北海道博物館・開拓の村・自然ふれあい交流館の一体的な広報		特別展等展示会：5件 かるちゃんnet：1件 北海道みんなの日：1件 自然観察会：1件 教員のための博物館の日：1件		達成度		評価		達成状況		達成状況	
年度計画以外の事業実施		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・野幌森林公園周辺に出発したヒグマの対応		達成度		評価				達成状況		達成状況	
令和元年6月～9月に野幌森林公園でヒグマが確認されたことに伴い、森林公園の安全な利用のための対応を実施。		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・森林公園内の巡視		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・公園利用者への注意喚起		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・ヒグマの目撃情報の収集・現地確認及び記録		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・関係機関との連携・協力・情報共有		達成度		評価				達成状況		達成状況	
【参考】『要覧2019』100ページ		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策		達成度		評価				達成状況		達成状況	
新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う北海道の緊急事態宣言が出されたことを受けて、北海道博物館も感染拡大防止に係る措置を講じた。		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・館内のイベント等中止		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・ハリライトツアー中止		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・はっけんイベント中止		達成度		評価				達成状況		達成状況	
・臨時休館		達成度		評価				達成状況		達成状況	
(休館中の主な対応：館内施設等・備品等の消毒、臨時休館に係る公共機関への掲示協力依頼等)		達成度		評価				達成状況		達成状況	
達成状況		達成状況		達成状況		達成状況		達成状況		達成状況	
自己評価		自己評価		自己評価		自己評価		自己評価		自己評価	
評価基準		評価基準		評価基準		評価基準		評価基準		評価基準	
A		A		A		A		A		A	
内容(計画達成に向けた具体的業務)		内容(計画達成に向けた具体的業務)		内容(計画達成に向けた具体的業務)		内容(計画達成に向けた具体的業務)		内容(計画達成に向けた具体的業務)		内容(計画達成に向けた具体的業務)	
① 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成30年12月策定)に関わる具体的取組の検討		① 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成30年12月策定)に関わる具体的取組の検討		① 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成30年12月策定)に関わる具体的取組の検討		① 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成30年12月策定)に関わる具体的取組の検討		① 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成30年12月策定)に関わる具体的取組の検討		① 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」(平成30年12月策定)に関わる具体的取組の検討	
② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する協議会の開催		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する協議会の開催		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する協議会の開催		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する協議会の開催		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する協議会の開催		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る活用イメージに関する協議会の開催	
③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡協議会」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡協議会」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡協議会」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡協議会」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡協議会」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡協議会」を活用し、管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上	
④ 道立自然公園野幌森林公園の保護と利用の促進		④ 道立自然公園野幌森林公園の保護と利用の促進		④ 道立自然公園野幌森林公園の保護と利用の促進		④ 道立自然公園野幌森林公園の保護と利用の促進		④ 道立自然公園野幌森林公園の保護と利用の促進		④ 道立自然公園野幌森林公園の保護と利用の促進	
⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議を活用し、野幌森林公園の火災を予防	
【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有		【判断数値設定】有	
② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る具体的取組の検討会議		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る具体的取組の検討会議		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る具体的取組の検討会議		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る具体的取組の検討会議		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る具体的取組の検討会議		② 「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る具体的取組の検討会議	
3回		3回		3回		3回		3回		3回	
③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の実施		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の実施		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の実施		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の実施		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の実施		③ 「北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議」の実施	
12回		12回		12回		12回		12回		12回	
④ 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会の実施		④ 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会の実施		④ 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会の実施		④ 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会の実施		④ 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会の実施		④ 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会の実施	
1回		1回		1回		1回		1回		1回	
⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議の実施		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議の実施		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議の実施		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議の実施		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議の実施		⑤ 野幌森林公園林野火災予防対策会議の実施	
1回		1回		1回		1回		1回		1回	

中期目標・計画番号	9-1	目標値番号	15	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目
9 広報
(1) 広報活動の強化

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	○	○	○	○	○

中期目標・計画 ア 道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。 イ 愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。 ★ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値(5年間) ホームページのアクセス数(トップページ) 395,000件
--

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標(値)	年度計画(案)	目標(値)(案)
① あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。	・利用の促進に直結つなげる戦略的な広報体制の強化・実践 ・ホームページのアクセス数(トップページ) 220,000件 【参考】前年度 259,947件 過去4年平均 237,696件	内容(計画達成に向けた具体的業務) ① 報道機関等への対応(新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、その他) ・各媒体からの照会に伴う広報の継続 ・戦路的に働きかけていく広報体制を強化 ② 職員全員の専門性を活かした広報活動(協力、寄稿、出演等) ・各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供(寄稿、出演を含む) ・招待講演(講座・講演会)等への職員派遣に伴う道民と直接接する広報活動	・ホームページのアクセス数(トップページ) 【参考】前年度 275,229件 過去5年平均 245,203件
② 各媒体からの照会に伴う広報を継続しつつ、戦路的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。	・入館者数(うち外国人) 320 人 91%	① 報道機関等への対応(新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、その他) ・各媒体からの照会に伴う広報の継続 ・戦路的に働きかけていく広報体制を強化	前年度の業務内実績を維持
③ 海外に向けた情報発信を強化する。	・入館者数(うち外国人) 304 人 138%	② 職員全員の専門性を活かした広報活動(協力、寄稿、出演等) ・各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供(寄稿、出演を含む) ・招待講演(講座・講演会)等への職員派遣に伴う道民と直接接する広報活動	前年度の業務内実績を維持
④ 修学旅行を含め、学校団体の誘致をはかる。	・入館者数(うち外国人) 6 件 60%	③ 広報誌・広報媒体の発行・配布 ・『森のちやれんがニュース』、『行事あんない』、特別展ポスター・チラシ、企画テーマ展ポスター・チラシ、特別イベント等のポスター・チラシ、『北海道博物館学校利用ガイド(令和2年度版)』、『要覧2019』	① 広報掲載・報道件数 400件 ② 職員による広報協力、寄稿、出演等 100件
⑤ 北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。	・入館者数(うち外国人) 100,000人/うち外国人5,200人	④ 愛称やロゴマークの積極的活用 ⑤ 愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちやれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討・取組	新増立ち上げ
⑥ 愛称「森のちやれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。	・学校団体の利用数/件数 (25,000人/350件)	⑥ 海外に向けた情報発信の強化に向けた検討・取組	前年度の業務内実績を維持
⑦ 平成30年度要覧を刊行する。	・広報媒体の件数(220件) ・愛称およびロゴマークの活用件数(10件) ・ホームページのアクセス数(250,000件)	⑦ 修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組	

中期目標・計画番号	9-2	目標値番号	16	担当	学芸部道民サービスグループ
-----------	-----	-------	----	----	---------------

第1期中期目標・計画項目	令和2年度からの第2期中期目標・計画項目(原案)では、項目名変更。
9 広報	9 広報 (2)他機関との連携による広報活動の強化
(2) 赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎

中期目標・計画
 ア 赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）を北海道博物館のサテライト空間として活用し、来訪者を北海道博物館に誘導する展示を実現するとともに、情報発信機能の強化に努める。
 イ 他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

点検項目集計	計	○	○	×	○
	4	4			0

令和元年度		令和2年度																																					
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）																																				
① イベント紹介コーナーの計画的な更新、利用者と直に接する広報活動を展開などを含め、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動（平成31年度は10月1日より改修工事で閉館となるため、9月30日まで）。 ② 10月～12月の間に、「北海道博物館赤れんがサテライト」の資料や物品を撤収する。 ③ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながってきたのか、総括する。 ④ 「サイエンスパーク」や「かるちゃんnet」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。	目標（値） ・「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動 ・「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数（5回） ・「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者らと接する広報活動の回数（10回）	達成状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>判断数値</th><th>実績値</th><th>達成度</th><th>評価</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤れんがサテライトでの情報更新回数</td><td>5 回</td><td>100%</td><td>A</td></tr> <tr> <td>赤れんがサテライトでの利用者らと直に接する広報活動</td><td>1 回</td><td>10%</td><td>B</td></tr> <tr> <td>その他の達成状況</td><td>主な実績（実施の根拠）</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>① 赤れんがサテライトでの積極的な広報活動</td><td>ポスター・ちらしによる特別展等の周知</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>② 赤れんがサテライトの閉室に係る資料・物品の撤収</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>③ 赤れんがサテライトの誘客効果の総括</td><td></td><td>×</td><td></td></tr> <tr> <td>④ 他機関との連携事業への参画</td><td>サイエンスパーク及びかるちゃんnet等</td><td>○</td><td></td></tr> <tr> <td>④ 他機関との連携事業における広報活動</td><td>サイエンスパーク及びかるちゃんnet等</td><td>○</td><td></td></tr> </tbody> </table> 【実績参考】『要覧2019』69～75ページ	判断数値	実績値	達成度	評価	赤れんがサテライトでの情報更新回数	5 回	100%	A	赤れんがサテライトでの利用者らと直に接する広報活動	1 回	10%	B	その他の達成状況	主な実績（実施の根拠）			① 赤れんがサテライトでの積極的な広報活動	ポスター・ちらしによる特別展等の周知	○		② 赤れんがサテライトの閉室に係る資料・物品の撤収		○		③ 赤れんがサテライトの誘客効果の総括		×		④ 他機関との連携事業への参画	サイエンスパーク及びかるちゃんnet等	○		④ 他機関との連携事業における広報活動	サイエンスパーク及びかるちゃんnet等	○		自己評価 A 【今後の課題】 ・赤れんがサテライトの誘客効果の検証結果をふまえて、北海道庁赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎）のリアル事業と連動したPR活動を検討していく必要がある。
判断数値	実績値	達成度	評価																																				
赤れんがサテライトでの情報更新回数	5 回	100%	A																																				
赤れんがサテライトでの利用者らと直に接する広報活動	1 回	10%	B																																				
その他の達成状況	主な実績（実施の根拠）																																						
① 赤れんがサテライトでの積極的な広報活動	ポスター・ちらしによる特別展等の周知	○																																					
② 赤れんがサテライトの閉室に係る資料・物品の撤収		○																																					
③ 赤れんがサテライトの誘客効果の総括		×																																					
④ 他機関との連携事業への参画	サイエンスパーク及びかるちゃんnet等	○																																					
④ 他機関との連携事業における広報活動	サイエンスパーク及びかるちゃんnet等	○																																					
内容（計画達成に向けた具体的業務）	前年度比	前年度の業務内容・実績を維持																																					
① 他機関との連携による広報活動の実施 ・かるちゃんnetによる連携事業の実施、CISEネットワークによる連携事業の実施、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークによる連携事業の実施、サイエンスパークへの出展、教員のための博物館の日in札幌への出展																																							
② 【新規】赤れんが庁舎（北海道庁旧本庁舎、改修工事中）のリアル事業と連動した北海道博物館のPRに向けた取組		新規立ち上げ																																					

中期目標・計画番号	10	目標値番号	17	担当	総務部企画グループ
第1期中期目標・計画項目 10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握					
中期目標・計画 ア 毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対応する。 イ オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表することにも、改善すべき点については、速やかに対応する。 ウ 自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。 ★利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値（5年間） 利用者満足度 70%					

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	
◎	◎	◎	◎	◎	◎
点検項目集計		計	○	×	
		5	4	1	

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）
① 北海道士立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）などの実施と運営を行う。	・北海道士立総合博物館協議会（2回）と専門部会（1回）の運営と実施。 ・内部評価及び外部評価の計画的実施。	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 「北海道士立総合博物館協議会」による重要事項の調査審議 ・「北海道士立総合博物館協議会」の開会 ・同協議会「アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催 ② 「北海道士立総合博物館内部評価委員会」の開催と令和元年度事業の内部評価 ③ オーディエンス・リサーチ（利用者調査） ・特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析 ・利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施） ・解説員活動日誌及び図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析 ・アイヌ文化Q & A（総合展示室第2テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析 ・指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析 ・口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握 ・出口調査・追跡調査の実施	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持
② 第1期中期目標・計画期の外部評価の実施	・平成31年度内部評価の実施	④ 北海道士立総合博物館協議会による調査審議、内部評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年間計画の作成	新規立ち上げ 前年度の業務内容・実績を維持
③ アンケート調査などによるオーディエンス・リサーチを実施する。	・第2期中期目標・計画（平成32～36年度）を策定する。	⑤ 評価のあり方についての検討・取組 ⑥ 協議会の進め方についての検討・取組	

中期目標・計画番号		7	目標値番号	18	担当	総務部企画グループ				
第1期中期目標・計画項目 7 道民参加型組織の整備										
中期目標・計画 北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。 ア ポラントニア活動の導入、道民の自主的なサークル活動の支援、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。 イ ミュージアムショップ、カフェなどの利用者サービス、有料イベントの企画・運営、外部資金の受入れと活用など、北海道博物館の各種活動に協働参画する支援組織の整備に取り組む。										
年度計画		目標（値）		達成状況		項目別評価（令和元年度の実施状況）	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
① 第1期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）の事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する（館長との意見交換の場）。		・道民参加型組織の創設と支援に向けた方向性の確立。 ・博物館ネットワークの推進と強化。		達成状況 ① 「ミュージアム・パートナー」（仮称）の事業実施 ① パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織の設置 ② 博物館を支援する組織体制の強化 ③ 道民参加型の展示事業の検討		【全体的評価】 ・左記の年度計画については、すべて検討段階にとどまったが、サークル型学習活動の新規事業化など、道民参加型活動の幅を拡充した。 【未実施の項目】 ・ミュージアム・パートナー（仮称）の事業実施や博物館運営の諮問的な組織の設置など、道民参加型活動のあり方を検討する道民参加型の会議の設置を検討したが、北海道博物館が直面する諸状況を鑑み、実施は見送っている。そのことも含め、年度計画のすべての項目において、ほぼ前進が図れなかった。 【その他特記事項】 ・一方、道民参加型活動を段階的に推進していく一環として、古文書学習サークル「ちゃれんが古文書クラブ」を企画し、令和2年度より活動を展開することとした。 ・平成30年度より取り入れた図書室支援員制度は、令和元年度においても継続されている。 【今後の課題】 ・道民参加型活動の推進を実現に導くにあたり、障壁となっている多面的な課題を一つ一つ解決していく必要がある。また、計画のあり方・進め方、目標管理体制のあり方の再検討を含め、館内議論を活性化させ、館としての方向性を確立・共有していくことが必要である。		B	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 【重点／新規】「ちゃれんが古文書クラブ」の創設・運営 ② 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生体イノベーション」調査（第二次）」（再掲）への市民参加 ③ 来館者参加型展示コーナー（再掲）の運営 ・アイヌ文化Q & A（総合展示室第2テーマ） ・総合展示2階出口付近の参加型展示 ④ 第4テーマ「今とこれからをつくる」（再掲）の運営 ⑤ 休憩ラウンジにおける道民参加型展示の実施（再掲）の運営 ⑥ 博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営 ⑦ ポラントニアによる図書室の閲覧対応、季節に応じた配架工夫、蔵書整理 ⑧ 【重点】さらなる博物館活動への道民参加促進に向けた企画・立案 ⑨ 【重点】北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に應える支援組織（ミュージアム・パートナー）の整備に向けた検討・取組 ⑩ 【重点／新規】地域住民の北海道博物館に対する理解促進と愛着醸成、および各種支援・協力による博物館活動の活性化に向けた施策の検討・取組	前年度比 新規立ち上げ 前年度の業務内容・実績を維持 新年度の重点課題（優先度↑） 新規立ち上げ
【判断数値設定】 無							【判断数値設定】			

中期目標・計画番号		12-2～3		目標値番号		20		担当		学芸部社会貢献グループ	
第1期中期目標・計画項目 12 情報発信 (2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化 (3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援											
変更。											
12 情報発信 (1)情報発信機能の強化											

令和2年度からの第2期中期目標・計画項目(原案)では、項目を整理・変更。											
12 情報発信 (1)情報発信機能の強化											

中期目標・計画											
ア ICTなどを活用した情報発信機能の強化											
ア 北海道博物館及び道内博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータを整備し、ICTを活用した、関係機関とのより効果的なネットワークを構築する。											
イ ICTなどを活用した多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。											
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援											
ア 北海道の自然・歴史・文化に関する図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。											
イ 収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。											
ウ 北海道の自然・歴史・文化に関する道民の身近な相談窓口として、利用者からのアクセスツールを整備し、レファレンスや学習支援の機能を強化する。											
★来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。 設定内容 目標値 (5年間) 写真の提供件数 350件、レファレンス件数 4,000件 アンケート、その他の利用件数 500件											

令和元年度		令和2年度		
年度計画	目標(値)	達成状況	自己評価	
(2) ICTなどを活用した情報発信機能の強化	・図書室の蔵書の充実及び利用促進	目標(値) 実績値 達成率 評価	A	
	・レファレンスサービスの記録化及び活用	写真の提供件数 94 件 134% A		
	・写真の提供件数 70件	レファレンス件数 426 件 53% B		
	・レファレンス件数 800件	アンケート、その他の利用件数 31 件 31% B		
	・アンケート、その他の利用件数 100件	その他の達成状況 主な実績(実施の根拠) 実施		
(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援	【判断数値設定】有	×	【計画になかった項目】	
	・写真の提供件数 (70件)	恒常的に実施		・図書室利用に関しての、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置(令和元年度はさしあたって消毒液の設置と読書の手指の消毒周知)。
	・レファレンス件数 (800件)	リツイート等の数、ツイッターやYouTubeのチャンネル登録者数、YouTubeの再生回数、YouTubeのコメント数、YouTubeのいいね数、YouTubeのシェア数、YouTubeの再生回数、YouTubeのコメント数、YouTubeのいいね数、YouTubeの		

中期目標・計画番号	13-1～3	目標植番号	21	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

プライオリティ					
	H27	H28	H29	H30	H31
(1)					
(3)					
(3)					

点検項目集計	計	○	×
	6	1	5

第1期中期目標・計画項目

1.3 人材育成機能の強化

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入

(2) 外来研究員の受入

(3) 派遣研修

令和2年度からの第2期中期目標・計画項目(原案)では、項目名を一部変更。

1.3 人材育成機能の強化

中長期目標・計画

- (ア) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ
- (イ) 博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より制度的な実習（研修）プログラムを構築する。
- (エ) 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。

- (3) 派遣研修

外部機関が開催する博物館学系研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を蓄積する。

令和元年度		項目別評価（令和元年度の実施状況）			令和2年度																	
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）																
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ① 博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施する。 ② 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。 ③ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。 (2) 外来研究員の受入 ① 引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定種の整備などの検討や他館の現況調査などを行い、制度の枠組みの立案をはかる。 (3) 派遣研修 ① 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。	・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成 ・博物館学系領域の充実化	<table><tr><th>判断数値</th><th>実績値</th><th>達成度</th><th>評価</th></tr><tr><td>博物館実習の受入件数</td><td>6 件</td><td>150%</td><td>A</td></tr><tr><td>インターンシップの受入件数</td><td>5 件</td><td>83%</td><td>B</td></tr><tr><td>博物館学系研修会や技術研修会への参加件数</td><td>6 件</td><td>150%</td><td>A</td></tr></table> その他の達成状況 (1) ① 博物館実習（館務実習）を夏季に1回実施 (1) ② 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的な受け入れ (1) ③ 大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣 (2) ① 外来研究員制度の枠組みを立案 (3) ① 外部機関による博物館学系研修会への職員派遣 【実績参考】『要覧2019』56～57、109ページ	判断数値	実績値	達成度	評価	博物館実習の受入件数	6 件	150%	A	インターンシップの受入件数	5 件	83%	B	博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	6 件	150%	A	【達成度が高い項目】 ・博物館実習については例年どおり募集し17名を受け入れ、実習プログラムを作成し、各研究グループと協力体制をつくりながら実習指導を実施した。 ・今後の課題 ・外来研究員制度についての情報収集を進め、たたき台となる素案づくりに向けて検討を進めることが必要。 【次期年度計画に向けた留意点】 ・博物館実習、見学実習、インターンシップ等の受入れに際しては、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行ったうえで、可能な限り対応する。	A	内容（計画達成に向けた具体的業務） (1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ ① 博物館実習生の受入れ ② 見学実習の受入れ ③ インターンシップの受入れ ④ 大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣 (2) 外来研究員の受入 ① 外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備 (3) 当館職員の資質向上 ① 文化庁、日本博物館協会、北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施される博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持 前年度の業務内容・実績を維持 前年度の業務内容・実績を維持 前年度の業務内容・実績を維持
判断数値	実績値	達成度	評価																			
博物館実習の受入件数	6 件	150%	A																			
インターンシップの受入件数	5 件	83%	B																			
博物館学系研修会や技術研修会への参加件数	6 件	150%	A																			
	・博物館学芸員の後継者および博物館のコアユーザー育成 ・博物館学系領域の充実化				博物館実習生の受入れ 1回、上限20人 (1) ② 見学実習の受入れ 7件、100人 (1) ③ インターンシップの受入れ 7件、30人 (3) ① 博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加 10件、20人																	

中期目標・計画番号	14-1～4	目標値番号	22	担当	学芸部社会貢献グループ
-----------	--------	-------	----	----	-------------

	プライオリティ			
	H27	H28	H29	H30
(1) ~ (4)				

点検項目集計	計	○	×
	9	○	9

中期目標・計画

(1) 学術刊行物などの刊行

ア 研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。

イ 北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。

ウ 企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説冊子を刊行する。

(2) 学会への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。

(3) 職員への対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対し積極的に協力し、社会貢献に努める。

(4) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

★社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設定内容 目標値(5年間) 新聞・報道記事の件数、招待講演の件数、各種委員・共同研究員等要属の件数、学会発表の件数、学術雑誌等への寄稿の件数、その他の件数 計900件

[illegible]

中期目標・計画番号		14-5		目標値番号		23		総務部企画グループ		担当	
-----------	--	------	--	-------	--	----	--	-----------	--	----	--

第1期中期目標・計画項目											
14 研究成果の発信と社会貢献											
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献											

中期目標・計画											
ア 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献する。											
イ 道の総合計画「ほっかいどう未来創造プラン」などとリンクし、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへ結びつく研究を推進する。											
ウ 多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会など、北海道であるからこそ率先して目指すべき社会のあり方についてのビジョンを提言する。											

プライオリティ											
H27		H28		H29		H30		H31			
○		○		○		○		○		○	

点検項目集計		計		○		×	
		3		2		1	

令和元年度											
項目別評価 (令和元年度の実施状況)											
評価基準 A											
自己評価											
【全体の評価】 ・政策事業の着実な展開、道政と密着した研究の展開、道政に関わる事業への職員の貢献が、継続している。令和元年度は、特に、外部資金を活用し新たな取組も実施できた。 【達成度が極めて高い項目】 ・文化庁補助金を活用し、研修会「視覚障がいに対応した博物館づくりにむけて」を実施。北海道博物館支援学校などとの連携により、博物館関係者が視覚障がい者に対して意識すべき事項を再認識する研修機会を創出した。また、視覚障がい関係者と道内の博物館関係者をつなぐ機会としても有効であった。											
達成状況											
主な実績 (実施の根拠) 実施											
① 政策事業の推進と実施											
② ユニバーサル・ミュージアムに対応した博物館活動の検討・実施											
③ 研究機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組											
【判断数値設定】 無											

令和2年度											
年度計画 (案)											
内容 (計画達成に向けた具体的業務)											
① 「北海道総合計画」(平成28年度～令和7年度)などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・公表を推進											
② アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総合的に捉え持続可能な共生社会を模索する研究の推進											
③ 【重点/新規】 樺太記憶継承事業の展開計画の作成											
④ 【重点/新規】 北海道開拓記念館開館50年(2021年)、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年(2021年)、北海道開拓の村開村40年(2023年)、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年(2024年)を機会に実施する事業計画の作成・実施に向けた取組											
【判断数値設定】											

点検項目集計	計	○	×
	9	9	0

令和元年度		令和2年度	
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）
① 意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の常時把握などにより協議事項の洗い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のスリム化等を徹底する。	・ 課題の共有と解決	【進捗状況、未実施の項目、達成度が極端に低い項目】 ・ 定期の運営会議の幹部の会議等を開催することにより館内の意思決定の迅速化を図るとともに、各グループの懸案事項や進捗状況の把握・情報共有を行った。 ・ 懸案事項のうち雄太連盟関連事業や落雷などの災害対応のほか解説員業務に係る体制整備などの重要案件については、予算措置を含め対応について本庁関係部局と協議を行いながらその方向性について整理した。 ・ 全館的な懸案事項の洗い出しに関しては、現状では優先度・緊急度が高いものから順に取り組んでいる状況にあり、懸案事項全体の体系的な整理等には至っていない。	B
② 博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどして文化振興課との連携を強化する。			
③ 事業の着実な推進を図るため、より実効的な懸案事項の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。	【判断数値設定】 無	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 最終意思決定機関としての運営会議の実施 ② 目標管理体制 ・ 各種会議等 ⇄ 事務局グループ（一部長の管理・監督）⇄ 運営会議 ・ 職員個々の目標設定とその管理 ・ 職員全体会議の実施（都度実施） ・ 内部評価・外部評価を活用したPDCAサイクルによる目標管理 ③ 業務管理体制 ・ 館長 ⇄ 副館長 ⇄ 部長 ⇄ グループ主幹 ⇄ 主査 ⇄ 係（業務ライン） ・ 朝の全体ミーティング（開館毎日）による1日ごとの業務管理	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持
④ 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関へのPRを図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。			

中期目標・計画番号	目標値番号	25	担当	環境生活部文化局文化振興課
-----------	-------	----	----	---------------

外部評価項目 ガバナンス態勢の育成 3. 道庁の支援体制の育成	令和2年度からの第2期中期目標・計画項目(原案)では、項目名変更。 別紙 ガバナンス体制の確立 (3)道庁と博物館との連携
---------------------------------------	--

プライオリティ					
H27	H28	H29	H30	H31	

点検項目集計	計	○	○	×	○
	4	4	4	0	0

備考 平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、中期目標・計画とは別に設定した項目である。

令和元年度		令和2年度					
年度計画	目標（値）	年度計画（案）	目標（値）（案）				
① 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。	・課題の共有と解決	【主な実施状況】 - 平成30年12月に策定した「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る取組について、博物館と連携しながら推進するため、専任職員を配置した。 - 特別展をはじめとする各イベントについて、博物館と情報共有するとともに、報道発表を通じて道民等に広く周知を図った。 - 令和2年度の特別展（恐竜展）開催に向けて、博物館や庁内関係部局と開催内容について情報共有し、調整を図るとともに、必要な予算要求を行った。 - 開拓の村整備に関して、博物館や庁内関係部局と連携し、国の交付金を活用することにより、老朽化が進んだ建造物の改修等を行った。 【今後の課題】 - 重要事項がある場合は、その都度、今後の対応等について博物館と協議を行っているところであるが、定期的な打ち合わせは実施していない状況にある。文化施設を中核として文化と観光の振興を図ることを目的とした「文化観光推進法」などを踏まえ、博物館の魅力のより一層の向上に向けて、定期的な打ち合わせの場を設けるなどして積極的に情報共有を図り、連携を強化していく必要がある。	<table><tr><th>内容（計画達成に向けた具体的業務）</th><th>前年度比</th></tr><tr><td>① 適庁（窓口：文化振興課）と博物館の連携</td><td>前年度の業務内容・実績を維持</td></tr></table>	内容（計画達成に向けた具体的業務）	前年度比	① 適庁（窓口：文化振興課）と博物館の連携	前年度の業務内容・実績を維持
	内容（計画達成に向けた具体的業務）		前年度比				
① 適庁（窓口：文化振興課）と博物館の連携	前年度の業務内容・実績を維持						

自己評価

【主な実施状況】

- 平成30年12月に策定した「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に係る取組について、博物館と連携しながら推進するため、専任職員を配置した。
- 特別展をはじめとする各イベントについて、博物館と情報共有することともに、報道発表を通じて道民等にも広く周知を図った。
- 令和2年度の特別展(恐竜展)開催に向けて、博物館や庁内関係部局と関係内容について情報共有し、調整を図ることともに、必要な予算要求を行った。
- 開拓の村整備に関して、博物館や庁内関係部局と連携し、国の交付金を活用することにより、老朽化が進んだ建造物の改修等を行った。

評価基準

B

研究センター事業推進方針 針番号	1-1	研究センター目標 値番号	1	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	2-1
---------------------	-----	-----------------	---	----	---------------	-----------------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】						
1 展示事業						
1) 総合展示の運営						

北海道博物館中期目標・計画項目						
2 展示						
(4) 総合展示室の運営						

北海道博物館中期目標・計画						
ア 最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。						
イ 総合展示の展示資料について、道民及び関連機関に知らせるため、その全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する						
ウ 総合展示のメンテナンスに努める。						

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（総訂）						
・アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づき、わかりやすく・親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。						
1) 総合展示の運営						
・総合展示の入替えなどを継続的に実施し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。						
②「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用						
③展示資料の入替え						

点検項目集計						
計	7	○	6	×	1	

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ						
H27	H28	H29	H30	H31		
◎	○	○	○	○		

項目別評価（令和元年度の実施状況）						
令和元年度			令和2年度			
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）
以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。	① クローズアップ展示3、4の計画策定 ② クローズアップ展示の運用 ③ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画に基づき、入替を実施する。 ④ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。 ⑤ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。	① クローズアップ展示3、4の計画にはさまざまな分野・テーマを盛り込むよう留意 ② アイヌ文化Q&Aの定期的な追加・更新実施 ③ 総合展示資料の入替え基準を定め、入れ替え計画策定 ④ クローズアップ展示（クローズアップ展示3、4と各3回）も、アイヌ文化Q&A（更新年間3回（質問6件）） ⑤ 総合展示資料入替え（衣服及び関連資料（4回）） ⑥ 装身具・祭具等（1回） ⑦ ノート等（1回）	【未実施の項目】 ・iPadを用いた衣服写真の展示に整理の一環として年度末には本綿衣・鞆皮衣の写真を撮影することができたので、次年度以降に実施できる条件は揃ったが、感染症防止のため画面に触れる形式の展示を控えており、展示手法を改めて検討中である。 【達成度が低い項目】 ・「アイヌ文化Q&A」については前年度に掲示内容の検討を終えたものの年度前半に更新を実施。年間3回の更新を目指していたが、更新計画の策定とそれに基づく具体的な内容選定にまで至らず、達成できなかった。 【今後の課題】 ・「アイヌ文化Q&A」の定期的更新に向け、レファレンス内容の情報共有とともに、更新の計画的実施はかる。	B	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 総合展示室第2テーマにおける展示資料の入替え ・iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと運動した画像の追加・更新 ・入替え計画の作成 ② クローズアップ展示コーナーの更新 ③ 来館者参加型展示コーナーの入替え 【年間延べ3回程度】（用場） ・アイヌ文化Q&A（第2テーマ）（年間3回（質問数延べ6件）程度）	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持

【判断数値設定】 有						
① クローズアップ展示（クローズアップ展示3、4と各3回）も、アイヌ文化Q&A（更新年間3回（質問6件）） ② クローズアップ展示コーナーの入替え（1回） ③ 総合展示資料入替え（衣服及び関連資料（4回）） ④ 装身具・祭具等（1回） ⑤ ノート等（1回）						
① 総合展示室第2テーマにおける展示資料の入替え ・衣服（4回） ・装身具・祭具等（1回） ・筆録ノート等（1回） ② クローズアップ展示コーナーの更新 ③ アイヌ文化Q&A 3回（質問6件）						

研究センター事業推進方針 番号	1-2~3	研究センター目標 番号	2	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	2-2、3-2
--------------------	-------	----------------	---	----	---------------	-----------------	---------

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】 1 展示事業 2) 特別展・企画展 3) 道内市町村での資料展(アイヌ文化巡回展:仮称)の開催	アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】(略約) ・アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な機関として、学術的な信頼性の高い研究成果に基づき、わかりやすく・親しみやすい展示を行うとともに、不断にその内容の充実を図り、アイヌ文化の理解促進に努める。 2) 特別展・企画展 ・企画テーマ展を開催し、大人から子どもまでさまざまな人々に向けた展示の機会を設ける。 3) 道内市町村での資料展(アイヌ文化巡回展:仮称)の開催 ・道内巡回展を開催し、最新の研究成果や当館が所蔵するさまざまな資料を紹介する。
--	---

北海道博物館中期目標・計画項目	
2 展示 (2) 企画展示の開催	
3 調査研究 (2) アイス文化に関わる調査研究の重点化	

北海道博物館中期目標・計画	
2 展示 (2) 企画展示の開催	
アイ 北海道博物館や民間企業との連携・協働、全国特種の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。	
ウ 道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。	
エ 北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。	
3 調査研究 (2) アイス文化に関わる調査研究の重点化	
工 調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイス文化に関する理解促進の取組を一層強化する。	

点検項目集計	計	○	×
	3	3	0

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ		H27	H28	H29	H30	H31
		◎	◎	◎	◎	◎

令和元年度	令和2年度
年度計画	年度計画（案）
・平成31年度の第14回企画テーマ展「北の手仕事」を開催する。また、他の研究グループが主管する企画テーマ展について、内容に即して企画・協力をはかる。 ・平成31年度に開催予定の特別展「アイヌ語地名と北海道（仮）」について、研究センターからチームに参画し、これまで研究センターにおいて収集・整理・公開してきた資料（山田文庫）等の活用、アイヌ語地名やアイヌ文化に関する内容の充実を図る。 ・平成31年度の巡回展を開催するとともに、平成32年度の巡回展を企画する。策定に当たっては、平成30年度までの同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。 ・平成32年度以降の、アイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展や企画テーマ展の開催について、検討を継続する。	内容（計画達成に向けた具体的業務） 前年度比 前年度の業務内容・実績を維持 ① 企画テーマ展の開催 ② 総合展示室第2テーマ、クロスアツプ展示コーナー、来館者参加型展示コーナーの入替え計画の検討・作成（他テーマのクロスアツプ展示にも、適宜、参加・協力を検討） ③ 企画展等の中期計画の検討・作成（他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に即して企画・協力）
目標（値）	目標（値）（案）
・第14回企画テーマ展の開催。 ・平成31年度の巡回展の開催について策定し実施する。 ・平成32年度以降の企画テーマ展、巡回展等の開催計画の策定、および特別展開催に関する検討。 【判断数値設定】有 ・第14回企画テーマ展の来場者数（7000人） ・企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96%）	評価基準 A ・第14回企画テーマ展は、近年のこの時期（4月末～6月初旬）の展示と比べても比較的良好な来場者数となり、アイヌ文化にかかわる工芸作品の紹介へのニーズの高さをうかがわせるものだったといえる。また、作り手の方々とともに1年以上かけて準備を進め、演示と作品解説をお願いした点でも道民との連携の一つの形になったと考えられる。 【達成度が極めて高い項目】 ・第8回巡回展については冬季の開催ではあったが、来場者満足度も高く、当初予想以上の成果であった。 【達成度が低い項目】 ・第6回巡回展の満足度は、回答数が少なかった（3件）ため、1件の回答に結果が大きく左右された。回答率の増加は今後の課題であり、アンケート設置場所などの検討を進める。 【次期年次計画に向けた留意点】 ・アイヌ文化関連の展示や講座等についての道民ニーズが高く、引き続き各地域各機関等と連携をはかり企画立案を進める。
項目別評価（令和元年度の実施状況）	自己評価
達成状況	達成状況
判断数値 第14回企画テーマ展の来場者数 10,856人 達成度 155% A	達成度 155% A
企画テーマ展・巡回展満足度 ・第14回企画テーマ展 98.4% ・第6回アイヌ文化巡回展 66.7% ・第7回アイヌ文化巡回展 — ・第8回アイヌ文化巡回展 —	達成度 103% A 69% B — —
その他の達成状況 ① 第14回企画テーマ展「北の手仕事2019」の開催 ② 他グループ主管の企画テーマ展への参画・協力 ③ 特別展「アイヌ語地名と北海道」への参画 ④ 平成31年度巡回展の開催 ⑤ 令和2年度巡回展の開催計画の策定 ⑥ 令和2年度以降の特別展・企画テーマ展開催の検討	主な実績（実施の規則）実施 ○ ○ ○ ○ ○ ○
【実績参考】『要覧2019』76ページ	

研究センター事業推進方針 針番号	2	研究センター目標 値番号	3	担当	アイヌ民族文化研究センター	北海道博物館中期目標・計画番号	3-2
---------------------	---	-----------------	---	----	---------------	-----------------	-----

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】	
2 調査研究事業	北海道博物館中期目標・計画項目 3 調査研究 (2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約）	
アイヌの民族に関する専門的な機関としての社会的な要請に応じるために、それらの取り組みの土台となる研究プロジェクトを推進していく。	

点検項目集計	計	6	○	6	×	○
--------	---	---	---	---	---	---

北海道博物館中期目標・計画プライオリティ	H27	H28	H29	H30	H31
	◎	◎	◎	◎	◎

令和元年度		項目別評価（令和元年度の実施状況）			令和2年度																													
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	評価基準	年度計画（案）	目標（値）（案）																												
・「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれ個別課題に沿って進める。 ・平成30年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。 ・ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。 ・総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に関する資金の獲得を目指す。	・各個別課題やその成果に基づく事業の策定・実施。 ・調査研究や研究内容を検討する時間確保に努め、研究内容を充実させる。	<table><thead><tr><th>判断数値</th><th>実績値</th><th>達成度</th><th>評価</th></tr></thead><tbody><tr><td colspan="4">アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト</td></tr><tr><td>・研究課題の件数</td><td>4 件</td><td>100%</td><td>A</td></tr><tr><td>・研究成果発表等の件数</td><td>4 件</td><td>—</td><td>A</td></tr></tbody></table> アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト ・研究課題の件数 4 件 100% A ・研究成果発表等の件数 4 件 — 海外博物館等との共同研究プロジェクト ・研究課題の件数 2 件 100% A ・研究成果発表等の件数 0 件 — 研究成果発表等の合計件数 8 件 200% S 科研等の研究補助金件数 2 件 50% B その他の達成状況 <table><tbody><tr><td>① 道費による研究プロジェクトを個別課題に沿って実施</td><td>恒常的に実施</td><td>○</td></tr><tr><td>② 平成30年度で終了する個別課題の成果を踏まえた事業展開を検討・実施</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>③ 海外共同研究プロジェクトにおける課題のあり方の検討</td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>④ 研究資金の獲得</td><td>当年度外部資金の配当3件、次年度への新規申請3件</td><td>○</td></tr></tbody></table> 【実績参考】『要覧2019』23～31ページ	判断数値	実績値	達成度	評価	アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト				・研究課題の件数	4 件	100%	A	・研究成果発表等の件数	4 件	—	A	① 道費による研究プロジェクトを個別課題に沿って実施	恒常的に実施	○	② 平成30年度で終了する個別課題の成果を踏まえた事業展開を検討・実施		○	③ 海外共同研究プロジェクトにおける課題のあり方の検討		×	④ 研究資金の獲得	当年度外部資金の配当3件、次年度への新規申請3件	○	・②市民研究における調査対象の拡充、市民と歴史研究の成果の一部を令和3年度実施予定のアイヌ工芸品展に反映される検討、その他クロスアップ展示への反映等を進めた。 【今後の課題】 ・③アルバータへの調査に職員を派遣しカナダにおける先住民族と博物館との関わりを調査したほか、国際図書館大会先住民族部会に職員を派遣し資料保存利用機関と先住民族の関係のあり方に関する発表を行う等の取り組みを進めた。これらを館の事業や研究課題のあり方に反映させる取り組みは今後の課題である。 ・引き続き、これまでの研究成果の自己評価や関係者・外部のニーズ等を踏まえた今後の研究課題の検討や研究成果の展示への反映等の発信のあり方を検討する。	A	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクト【道費による研究：2課題】 ② 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施【道費による研究：2課題】 ③ 【新規】収集した樺連資料に関する調査研究 ④ 科学研究費による研究（当館職員が研究代表者であるもの）の実施 ⑤ これまでの調査研究の成果を踏まえた事業展開の検討 ⑥ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に関する外部資金の獲得にむけた検討・取組	前年度比 前年度の業務内容・実績を維持
判断数値	実績値	達成度	評価																															
アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト																																		
・研究課題の件数	4 件	100%	A																															
・研究成果発表等の件数	4 件	—	A																															
① 道費による研究プロジェクトを個別課題に沿って実施	恒常的に実施	○																																
② 平成30年度で終了する個別課題の成果を踏まえた事業展開を検討・実施		○																																
③ 海外共同研究プロジェクトにおける課題のあり方の検討		×																																
④ 研究資金の獲得	当年度外部資金の配当3件、次年度への新規申請3件	○																																

研究センター事業推進方針 研究センター事業推進方針番号		5-1		研究センター目標 値番号		8		担当		アイヌ民族文化研究センター		北海道博物館中期目標・計画番号		5-1～3																					
アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】																																			
5 成果の普及事業 1) 教育普及																																			
アイヌ民族文化研究センター事業推進方針【H26～31 補訂版】（縮約） ア 自然・歴史・文化の総合博物館であることのメリットを活かしながら、講演会・講座等の事業、展示の解説、「はっけん広場」（旧体験学習室）の機能の充実を図る。 イ ささまざまな年齢層に向けた、わかりやすく、楽しく、親しみやすい学習機会の提供や、学習素材の開発・作成等を通して、アイヌ文化の普及及び理解促進に努める。																																			
点検項目集計				計		2		0		X		0																							
令和元年度																																			
年度計画				目標（値）				達成状況				項目別評価（令和元年度の実施状況）				令和2年度																			
・平成30年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。 ・グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。				・アイヌ文化に関する普及事業の効果的な実施				判断数値 グループレクチャー実施件数 ・全体 ・アイヌ関連件数 はっけんプログラム実施件数 ・全体（クラス数） ・アイヌ関連件数（クラス数） 上記以外に行った館内イベント その他の達成状況 ① 教育普及事業について内容や効果を分析 ② グループレクチャーについて情報交換と内容検討の機会を設ける 【実績参考】『要覧2019』47～48ページ				実績値 115 件 50 件 212 件 146 件 0 件 主な実績（実施の根拠）実施 × ×				達成度 － 125% － 183% 0% C				自己評価 【達成度が極度に高い項目】 ・グループレクチャー、はっけんプログラムとも、当初予測よりも高い達成率となった。これは、学習指導要領等でアイヌ文化学習が奨励される一方で、国立アイヌ民族博物館開館前のため当館が数少ない学習機関と認識されたことが、小・中・高等学校それぞれ利用の増加に繋がったと考えられる。 【未実施の項目】 ・グループレクチャーについての情報交換と内容については、検討項目として挙げていたが年度内は未実施に終わった。 【次年度に向けた課題】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止策の一環でグループレクチャーの時間も当面短縮のまま進むと思われるので、短時間での効率よいレクチャーの実施をめざす。 ・学校教育等でのアイヌ文化学習が求められる一方でいわゆる学校現場では実施が難しいと認識されていると推測されることから、引き続きニーズが多くなるものと考えられる。				評価基準 A				年度計画（案）				目標（値）（案）			
				【判断数値設定】 有								内容（計画達成に向けた具体的業務） ① 学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施 ② はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施 ③ 諸行事の実施 ・子どもワークショップ ・ちやれんがワークショップ ・講演会（外部講師による講演） ・ミュージアムカレッジ（当館職員による講義形式の講座） ・アイヌ語講座（3回連続講座） ・特別イベント				前年度比 前年度の業務内容・実績を維持																			
				①グループレクチャーの実施 アイヌ関係40件																															
				② はっけんプログラムの実施 アイヌ関係140クラス																															
				③ 諸行事の実施 16件19回																															

研究センター事業推進方針
針番号

研究センター目標
値番号

10

担当

アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館中期目標・計画番号

アイヌ民族文化研究センター事業推進方針項目【H26～31 補訂版】

平成27年度末に北海道立総合博物館協議会から提出される評価のあり方に対する答申に応じて、研究センター事業推進方針及び中期目標・計画とは別に設定した項目である。

点検項目集計	計	6	○	5	×	1

令和元年度		項目別評価（令和元年度の実施状況）		令和2年度																				
年度計画	目標（値）	達成状況	自己評価	年度計画（案）	目標（値）（案）																			
・アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。 ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。 ② 研究センター職員による会議を引き続き定期的に開き、その際参加できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。 ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。	研究センター会議（副館長・センター長・非常勤職員の会議／職員全体の会議等）の定例開催	<table><tr><th>達成状況</th><th>主な実績（実施の根拠）</th><th>実施</th></tr><tr><td>① 基本方針についての検討会議の開催</td><td>定例会議の中で、年間研究計画・事業計画の検討及び進捗状況の報告等を実施。</td><td>○</td></tr><tr><td>② 研究センター職員による会議の開催</td><td>原則的に週1回、定例会議を設け事業の検討・報告や情報共有をおこなった。</td><td>○</td></tr><tr><td>② 研究センター職員による会議結果の情報共有</td><td></td><td>×</td></tr><tr><td>③ 各種業務の時間配分措置</td><td></td><td>×</td></tr></table>	達成状況	主な実績（実施の根拠）	実施	① 基本方針についての検討会議の開催	定例会議の中で、年間研究計画・事業計画の検討及び進捗状況の報告等を実施。	○	② 研究センター職員による会議の開催	原則的に週1回、定例会議を設け事業の検討・報告や情報共有をおこなった。	○	② 研究センター職員による会議結果の情報共有		×	③ 各種業務の時間配分措置		×	・定期的な会合については継続でき、検討協議事項から報告事項まで議題のバリエーションも増えつつある一方、会議結果の確認・共有や、研究／業務計画の検討に引き続き積極的に取り組むことを課題とする。	内容（計画達成に向けた具体的業務） ① アイヌ民族研究センターの意思決定・センター職員による会議を定例（都度）実施 ⇄ 運営会議 前年度比 前年度の業務内容・実績を維持	<table><tr><td></td><td>【判断数値設定】</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>		【判断数値設定】		
達成状況	主な実績（実施の根拠）	実施																						
① 基本方針についての検討会議の開催	定例会議の中で、年間研究計画・事業計画の検討及び進捗状況の報告等を実施。	○																						
② 研究センター職員による会議の開催	原則的に週1回、定例会議を設け事業の検討・報告や情報共有をおこなった。	○																						
② 研究センター職員による会議結果の情報共有		×																						
③ 各種業務の時間配分措置		×																						
	【判断数値設定】																							